

作惣名江舟

冠落

又物作

橋他

切先横ひ物也

子衛

片方平他

刻意平他

切先

小箱

三取

横ひ物

反

席標

又平標

丸紐

三取

後津屋

箱

平標

後

紐平

関

地別名

地又膚

地付

上作也

村膚

中他

帽子

巾

湯乞

裂

袖

佛

沙流

直刃

乱刃

逆乱

逆乱

逆乱

丁子

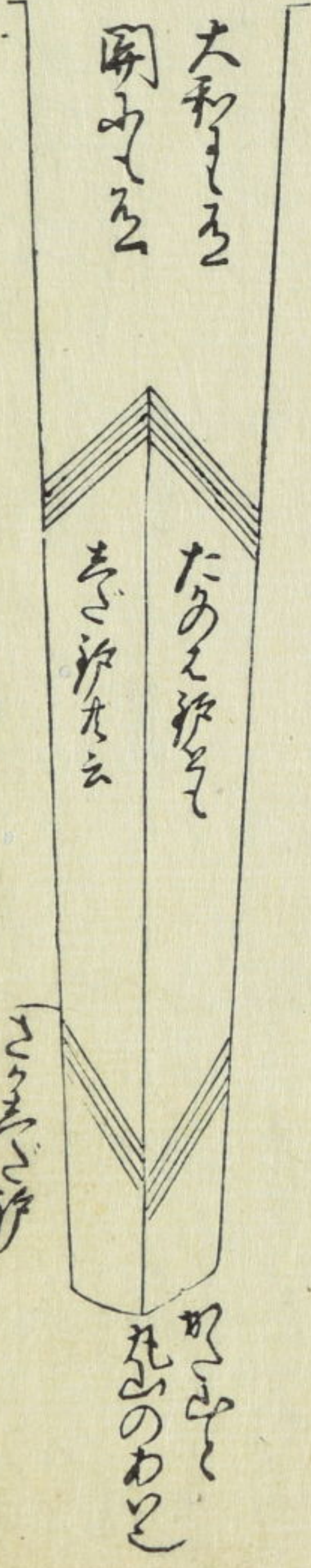
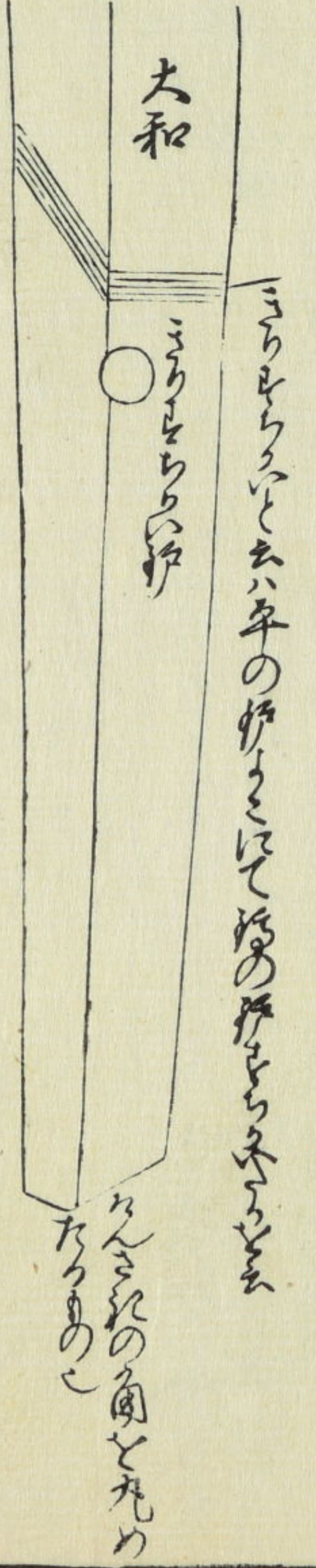
丁子靴

袴

心形像作之事

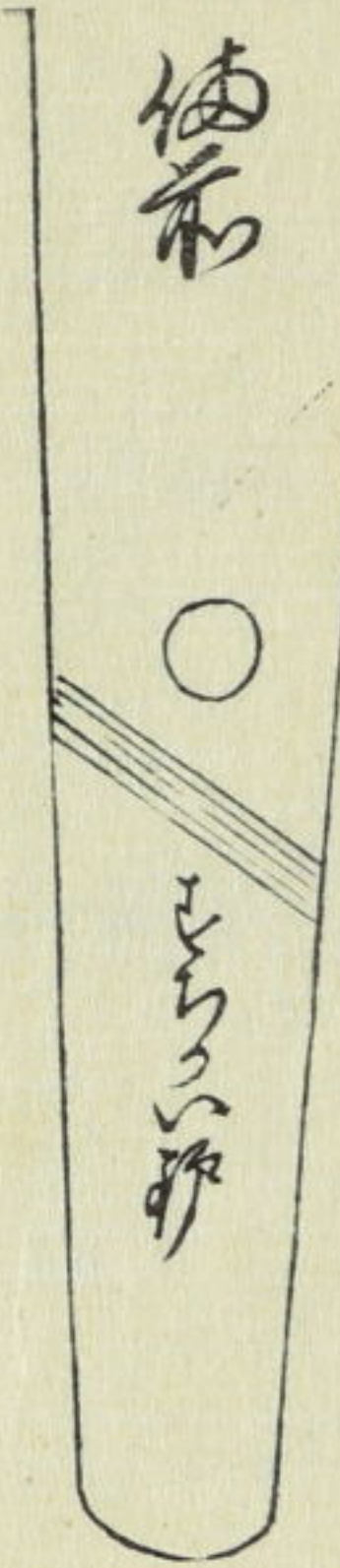
継目 継榫 継榫 付榫 横榫 横榫 横榫 横榫 横榫 横榫  
 切歯邊 齒原 遠臺 橋垣 山形 山形 山形 山形 山形 山形  
 一文字 車形 圓形 斤山 斤廻 斤廻 斤廻 斤廻 斤廻  
 率部海頭 真海 角 小肉 肉 目貫 元  
 刺物之流牙  
 長刀極 二筋極 三筋極 刀極 禱極 蓮華  
 得 刺 魂 續磨榫 三結 獨結 瓜形  
 梳字 玉鈴 油鈴 續栗柄 柳龍  
 不動

極之流牙



ト

正應永仁元徳二年建武ふとの年号は船治  
又云ふ福とらふ也



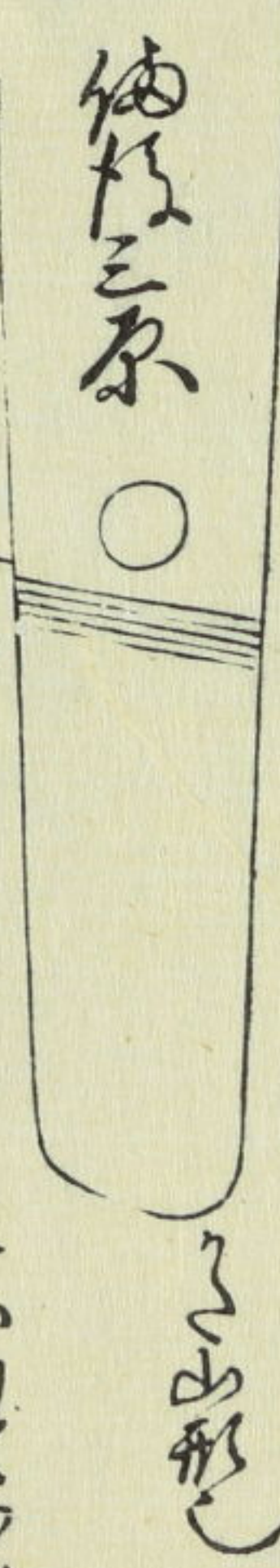
東のゆきの文的ゆきの  
ゆきの分計とらふ也



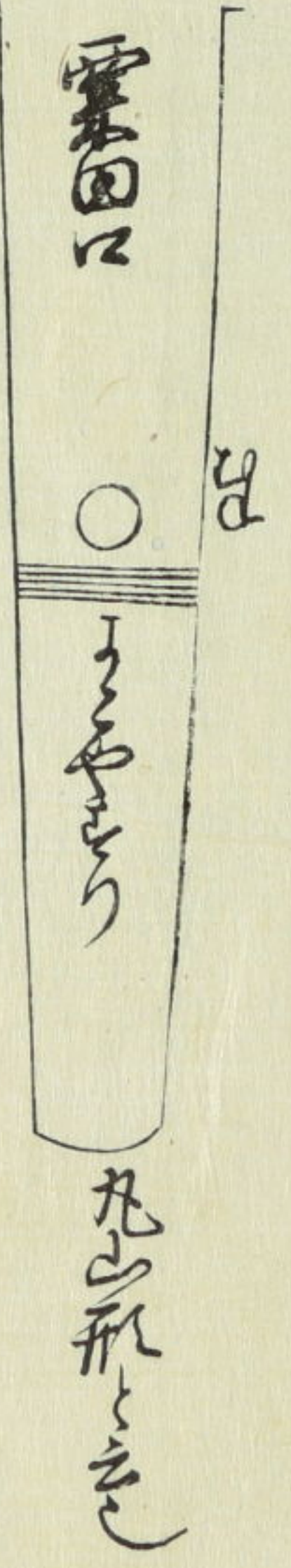
是とゆきまにとさたゆきまに  
又云せりゆきまにあり

まらゆきまにゆきの  
ゆきの分計とらふ也

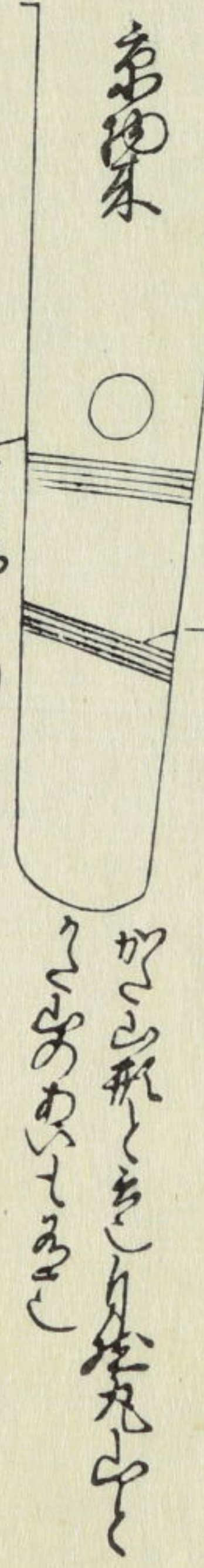
大とらふゆき



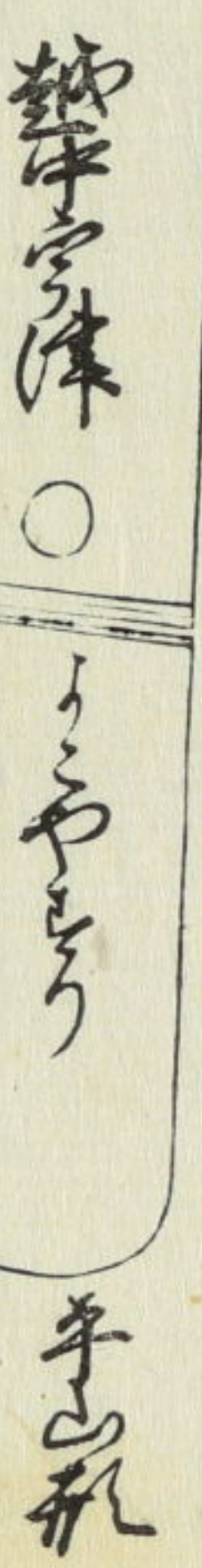
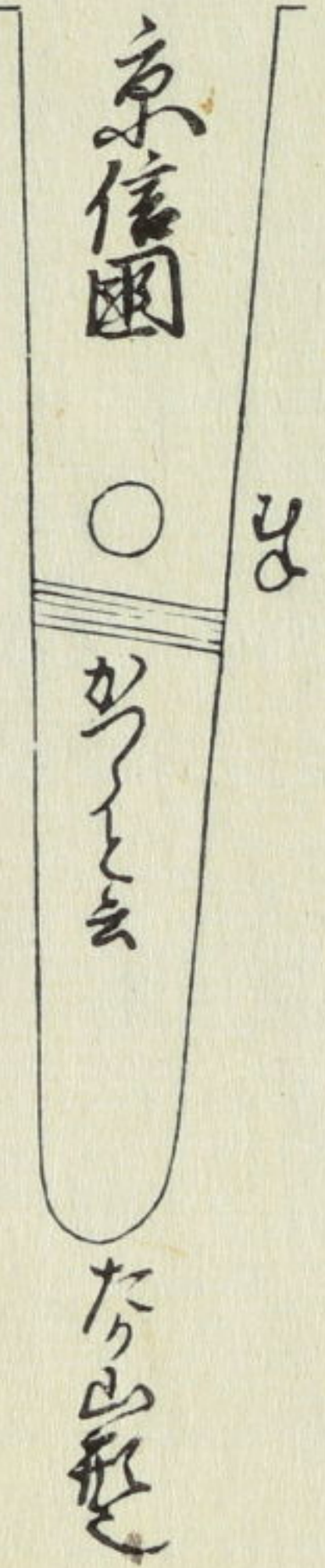
ゆきまにゆきまにゆきまに  
ゆきまにゆきまにゆきまに



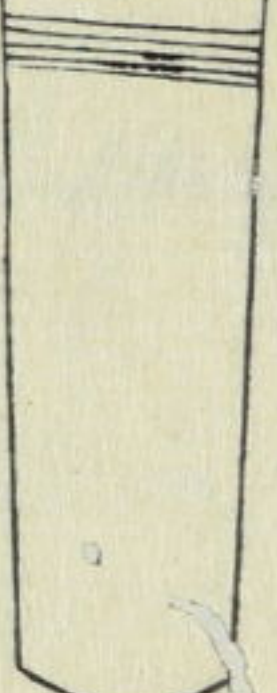
摸下とらふ也



ゆきの分計とらふ也

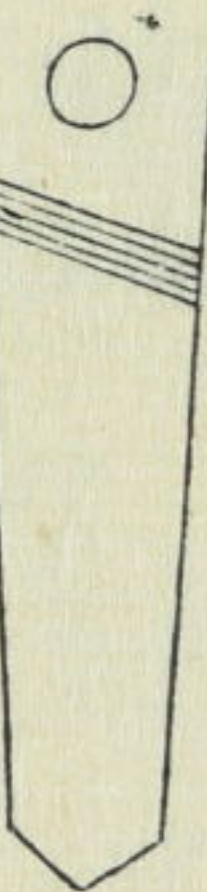


海胆形起壽



平山形丸山形も

後倉田



そのほからるるも

取物之字

後倉田

後倉田

後倉田

信國

信國

海胆形起壽

後倉田

信國

信國

後倉田

信國

信國

後倉田

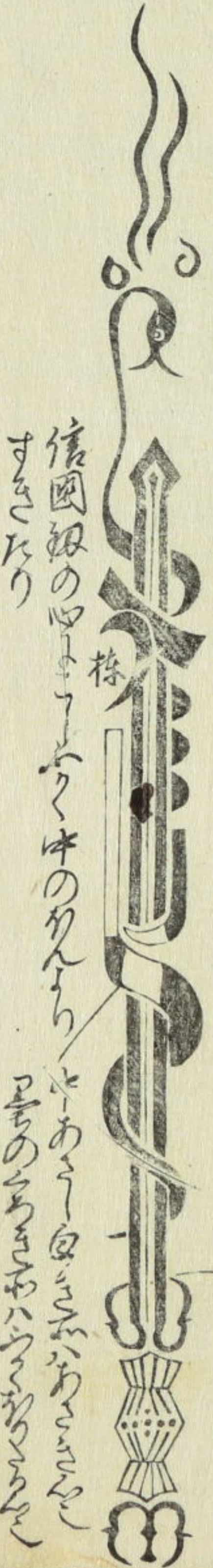
信國

信國

後倉田

後倉田

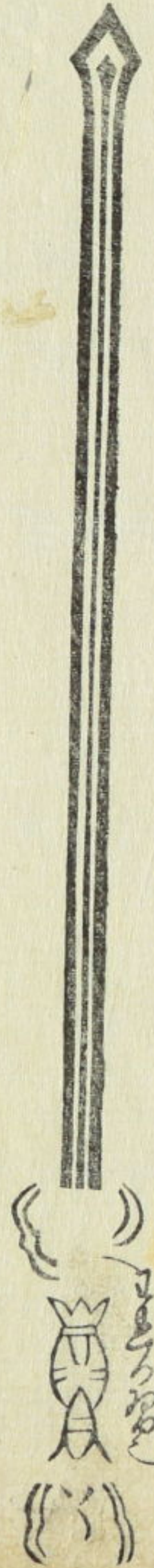
後倉田



信國銀の四つ

廣正

一 本末筋の七段



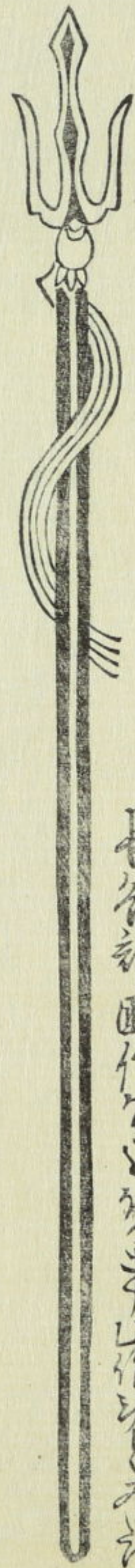
相州住秋廣表方



可作裏方

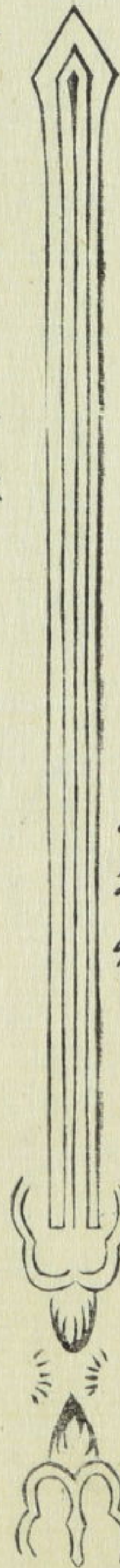
真の長刀極と云

單の長刀極と云



長谷部國代と云つたは作れしなり

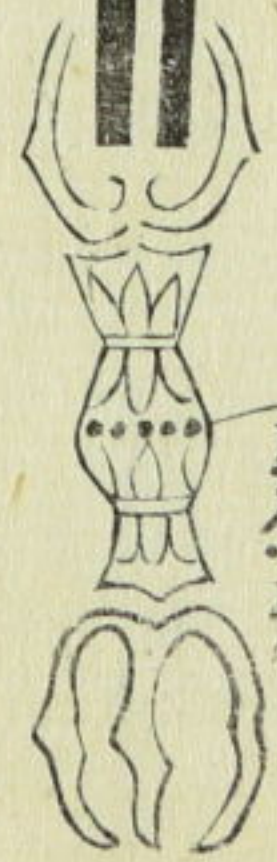
長谷部



細きやまのくちてむんごころ  
位國のまゝいなり

三原西家

細きいふ細やうやう



大和よいへんづのやまてむんごころ  
すばいぶらふて一敷の細い細と云うて

京作國

鎌倉細中よりまゝの細とよむやまて  
まゝの細と云うていふやまて



依國のまゝいなり

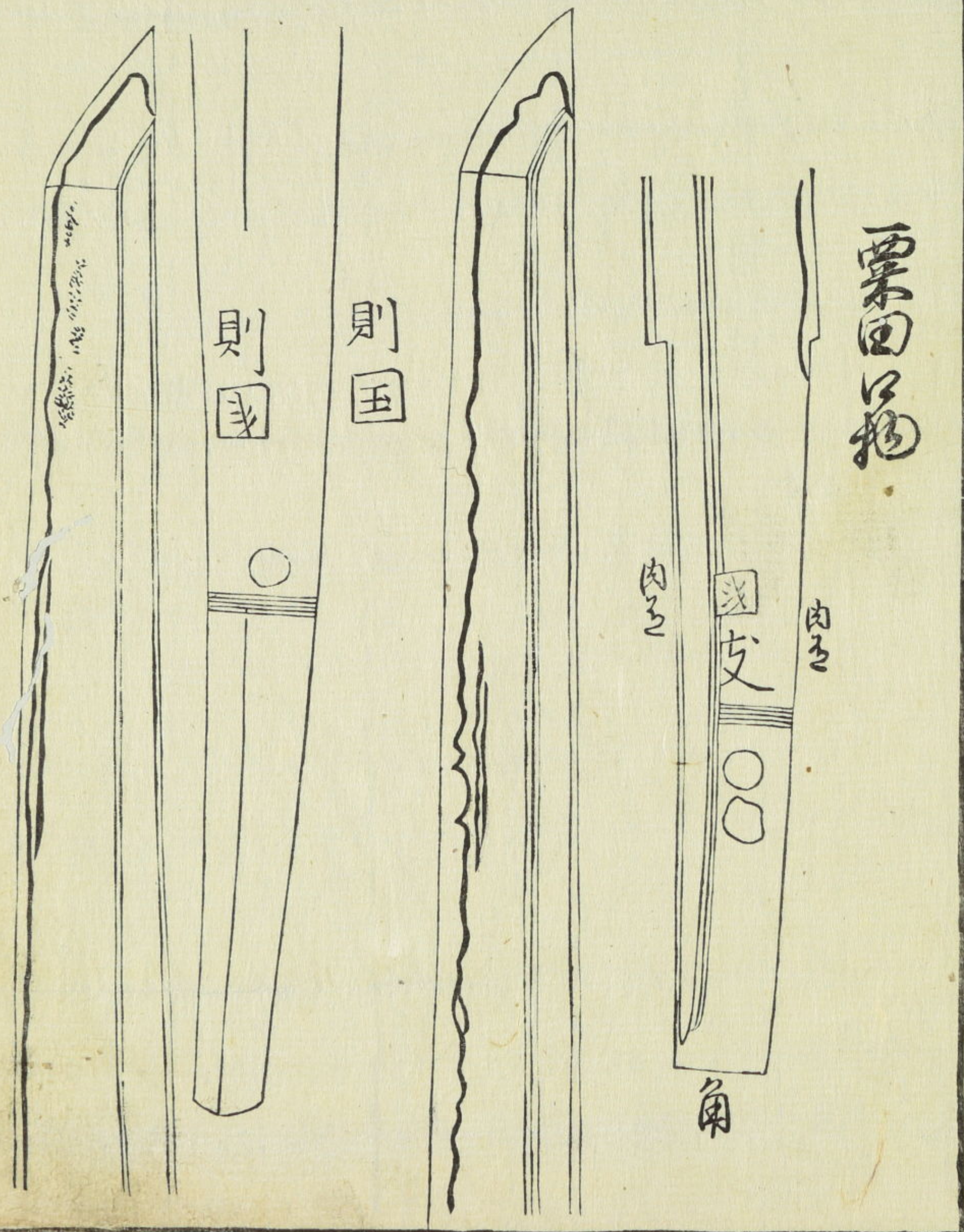
はつとあつて細と云うてやまて  
えむくやまていふやまて

鎌倉西家一敷の細と



三原西家





則

則

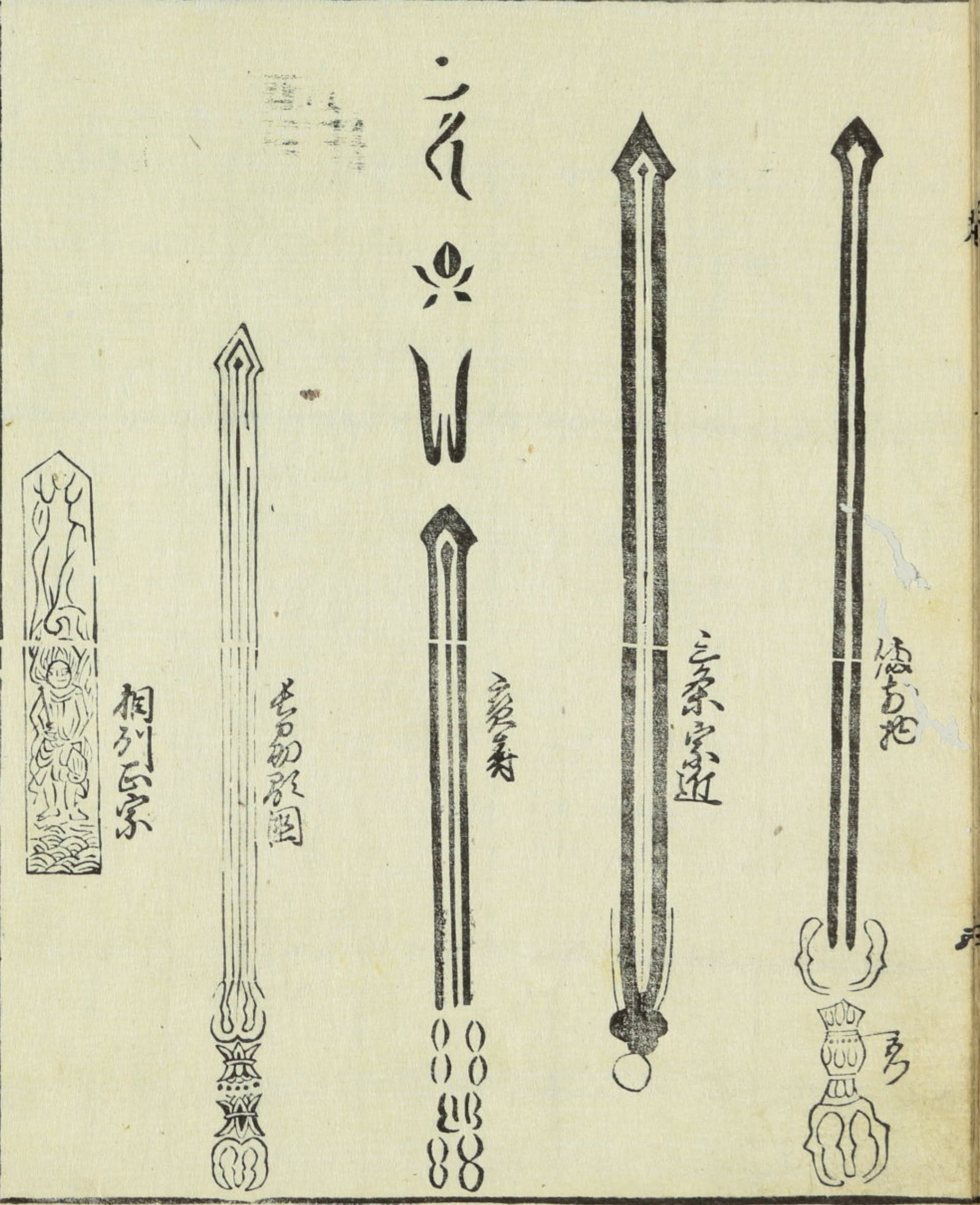
栗田

支

肉

肉

角



之

之

之



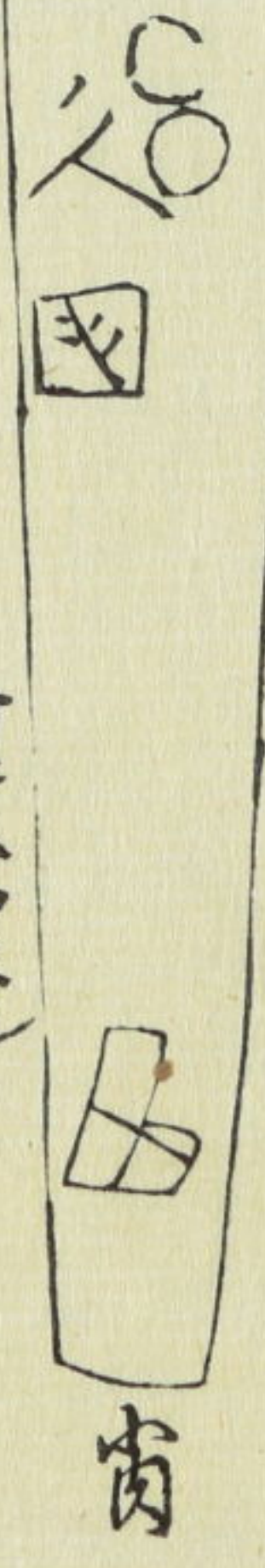
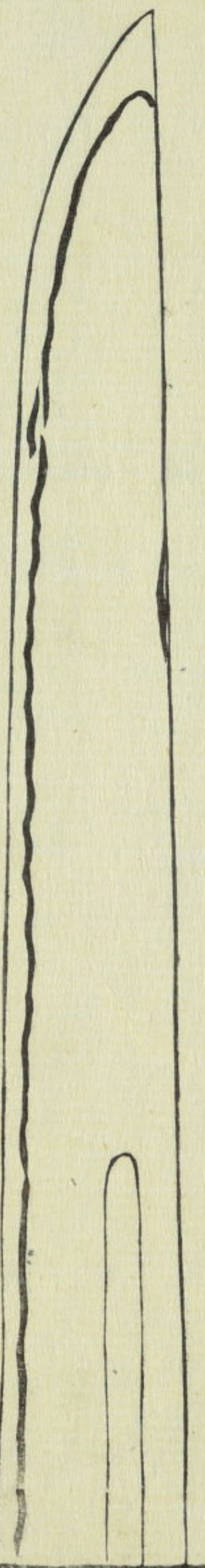
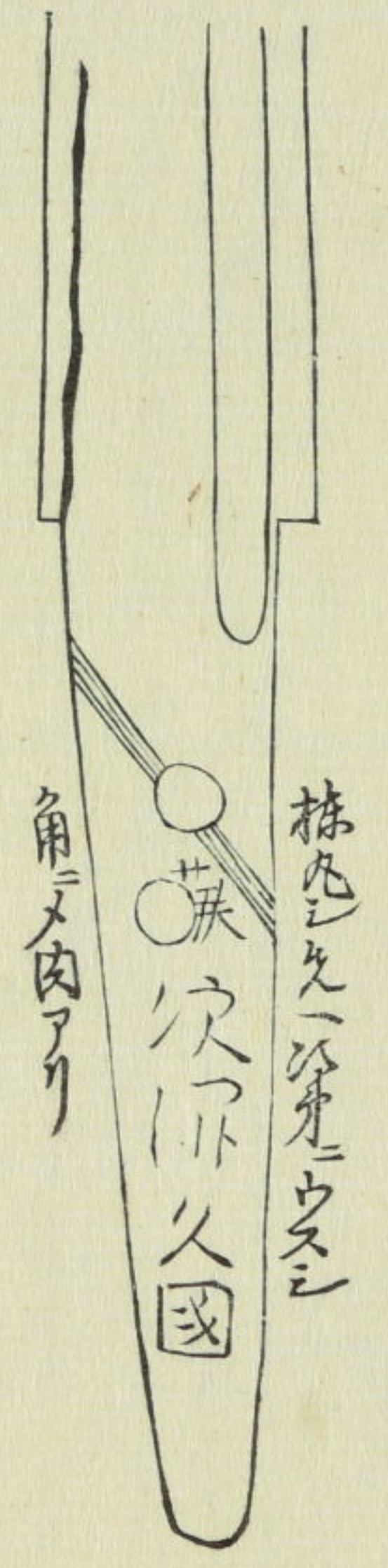
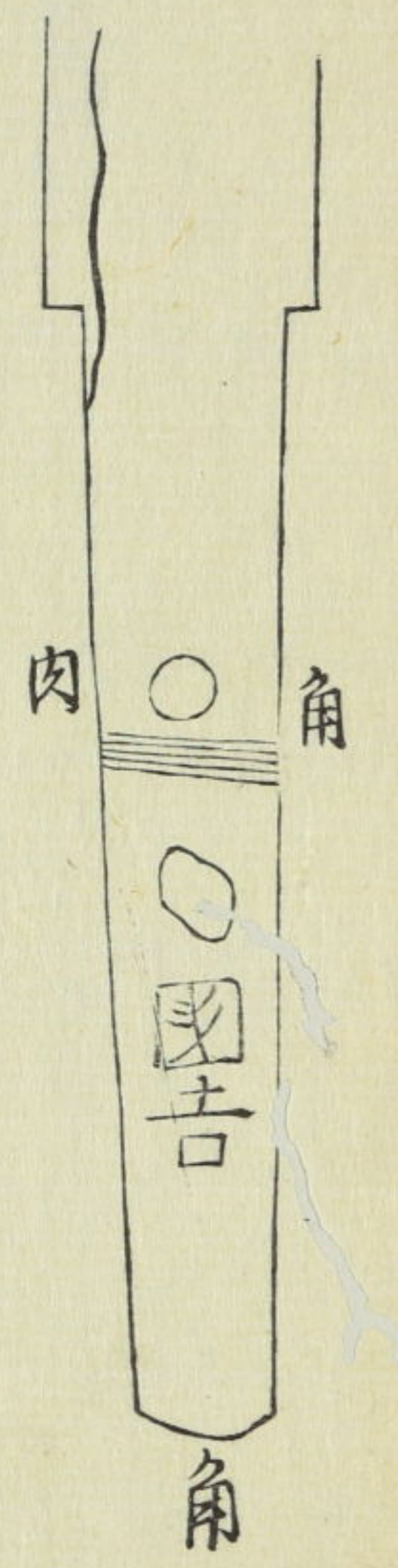
相列

之

之

之

之



角ニメ小肉アリ

楯ニ湯ビニカラシ

サキニウスニ

カリトク四分モト

帽子丸ニ  
亦云帽子の中を割らうも後沸く

刀は方より上ハ直き  
是より乱也

宗近守子

在國

角ニメ肉アリ

サキニウスニ

肉アリ



日

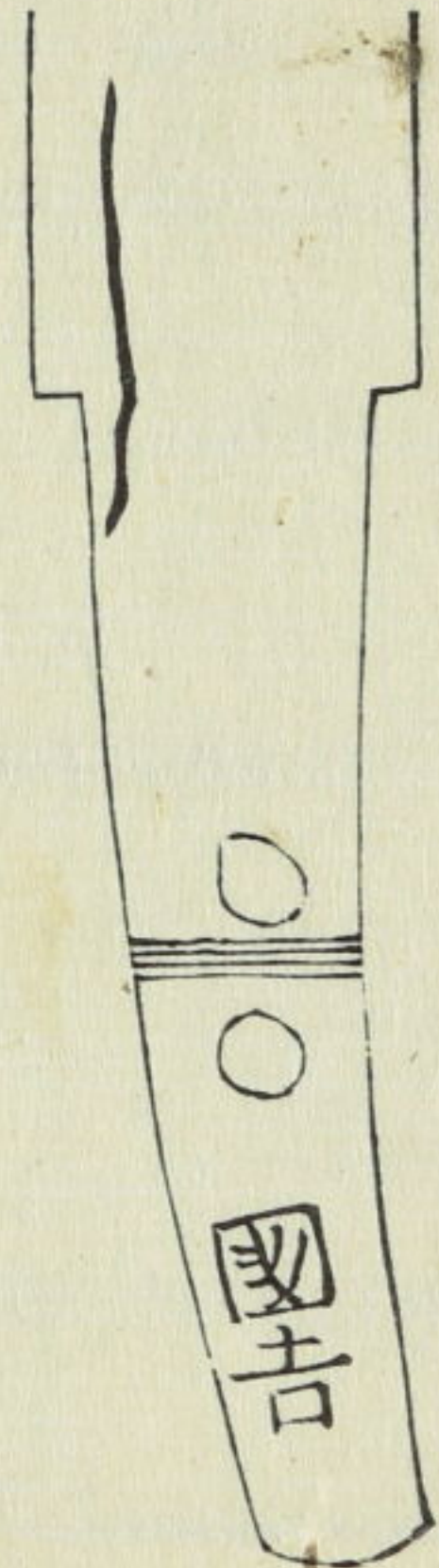
六

六





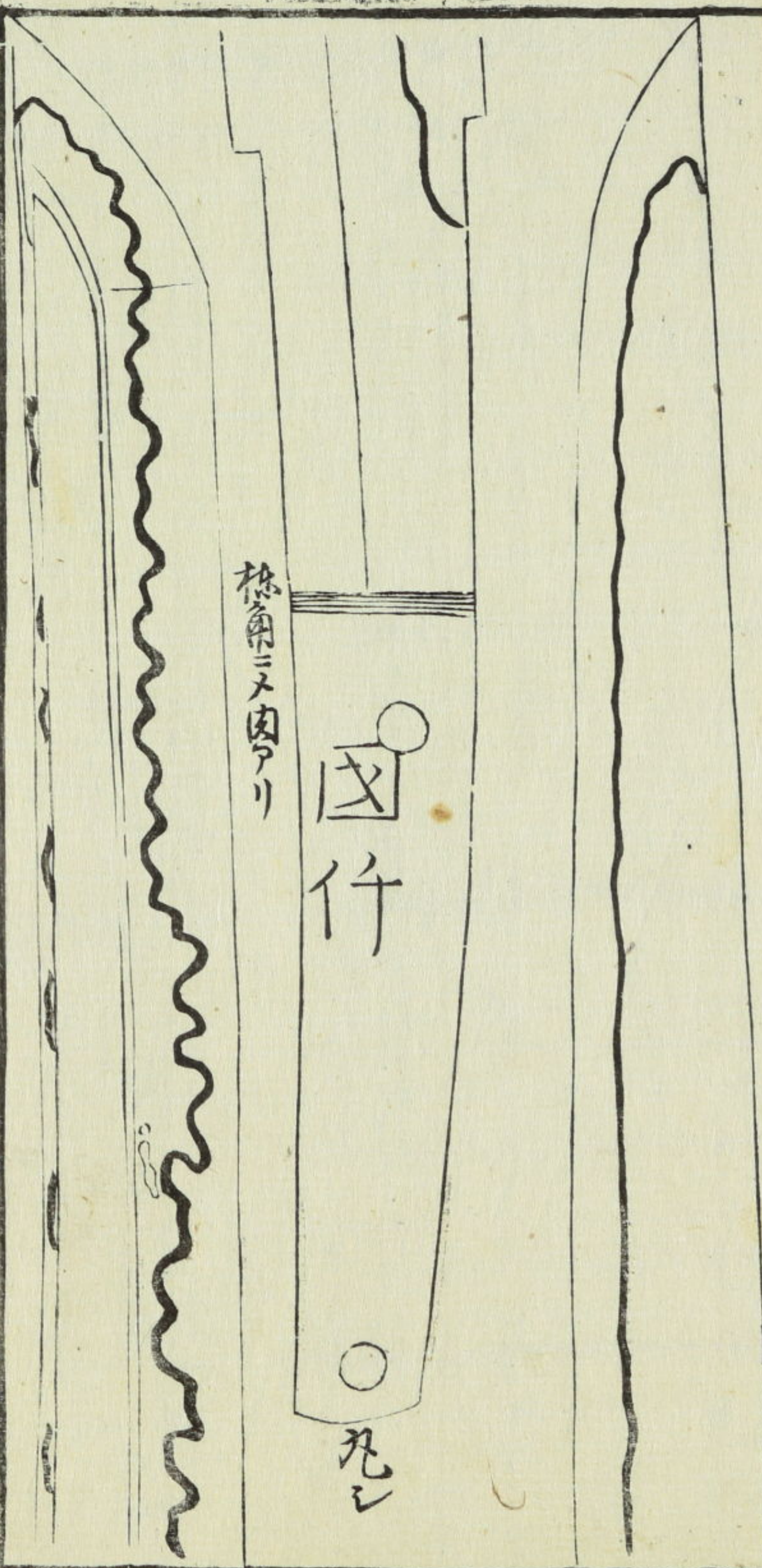
京来之類



國吉

丸

棟角ニメ肉アリ



竹

角ニメ肉

國行

棟ノウズ



國行



國行





高と角

来国光

栴角

おまねの孔みと焼くは津國房の心佛の御ちのたま  
國房子と又徳とまねてあり

かし丸  
おろりたる平かまのま

忠の栴角ニ大肉のこ馬方と曰  
やとり扱



高麗國後日國光出兼此用  
一高麗國の徳心とあつたのまのま

来国光



角

小肉アル也

○来国光

角 ○建武三年十月

沸きとろくと  
とけてあり

サ丸

脈ちりふふと入標ちりふふとあり

脈ちりふふとみんちりありせりてあは  
らんとて垢鉄あり

おまねの必割の上は沸きとろくと文字のふふとあおむと  
おまね沸きとろくと別れ割の肉入標沸倒し

中堂本

○光包

光包









心の標丸

長谷部国重

かじりまの或やまき

かじりまの

かじりまの筆字の繪

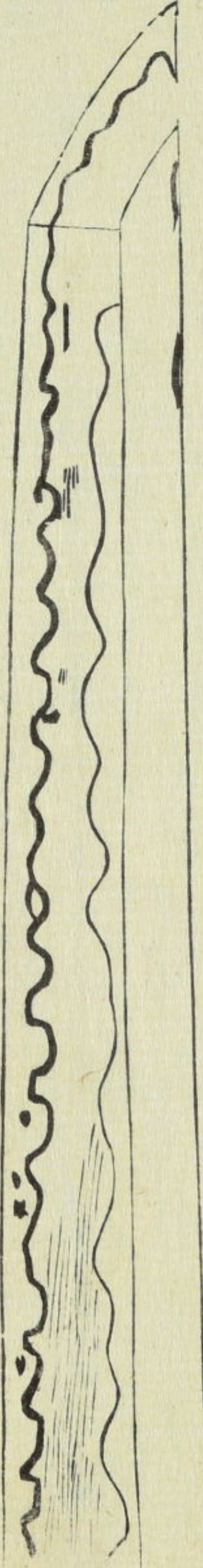
かじりまの筆字の繪

先の赤い

かじりまの或やまき

かじりまの筆字の繪

定利



平安城長吉作

毛より下角

毛より下

平安城住光長

かじりまの筆字の繪

毛より下角

毛より下

かじりまの

かじりまの筆字の繪

かじりまの筆字の繪

かじりまの

かじりまの筆字の繪

角ニメ肉

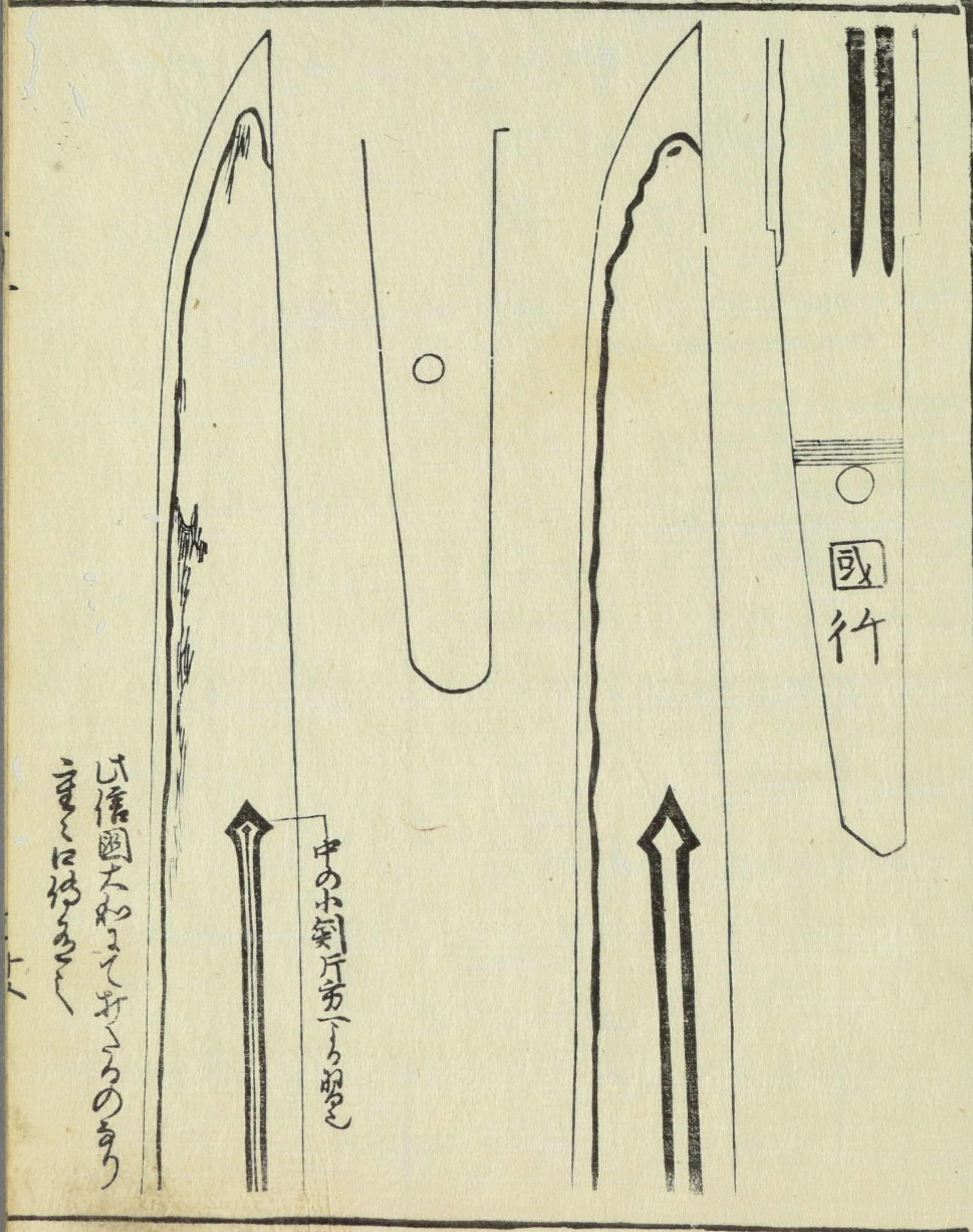
角

肉



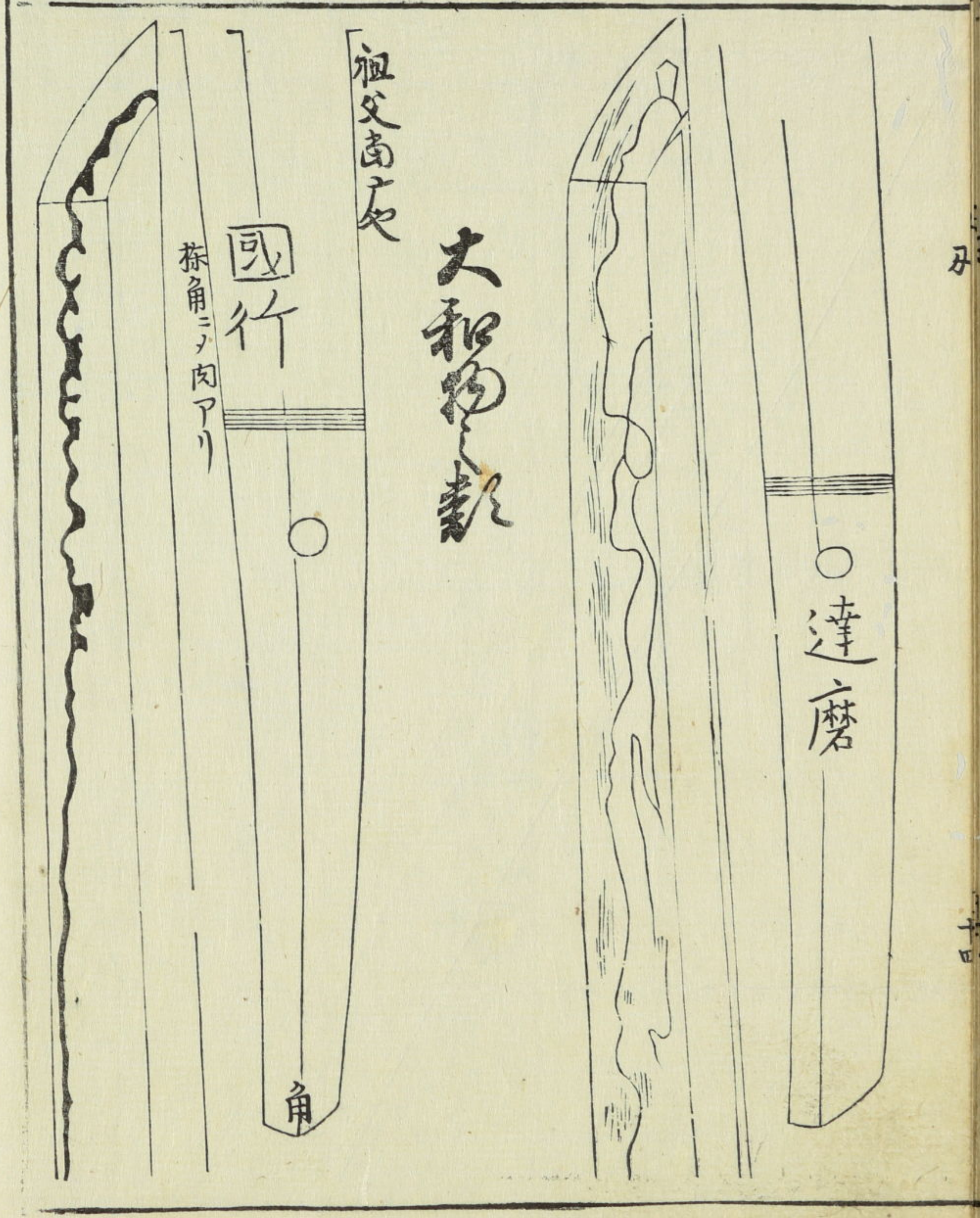
角

肉



信國大...  
 中の...  
 ...

中の...  
 ...



祖父高子也

大和物

拵角ニ肉アリ

國行

角

達磨

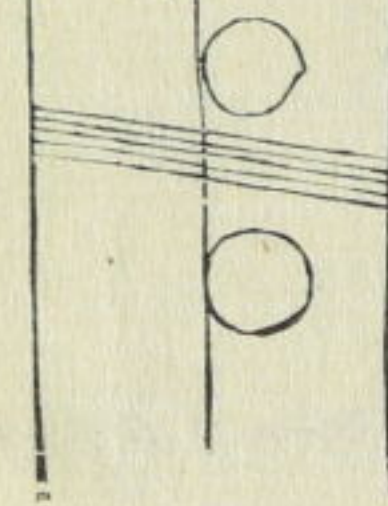
...

...



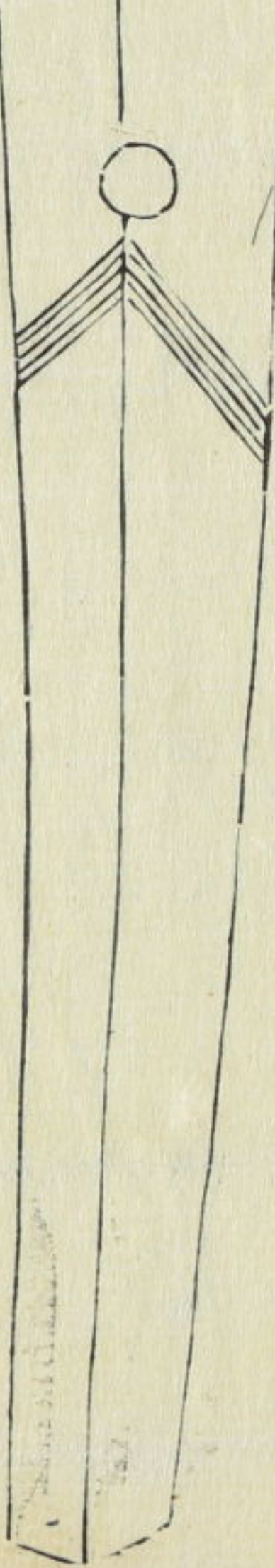


包永



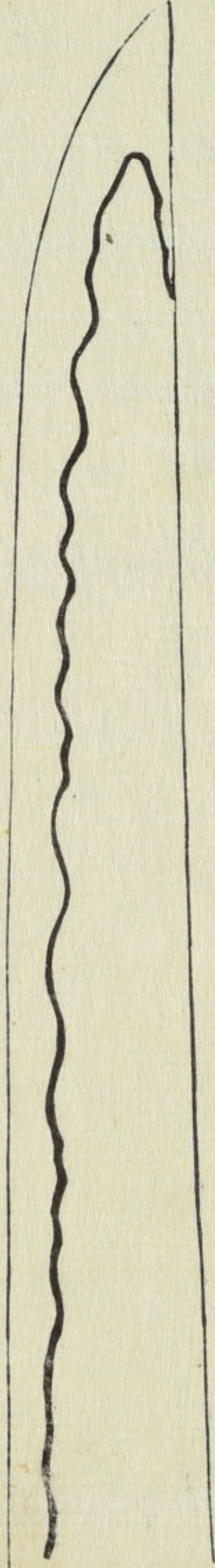
孫丸

包永

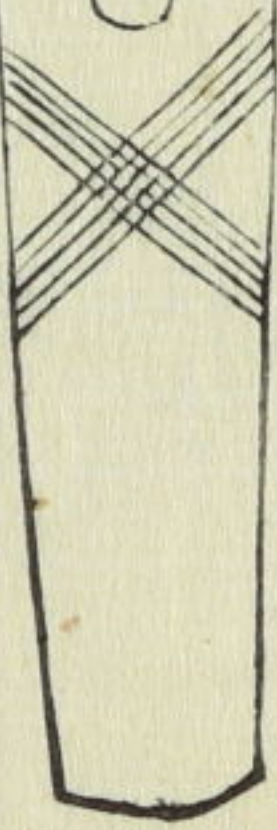


襷

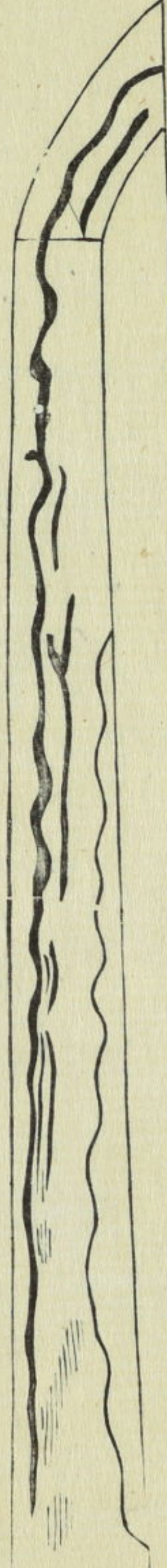
乙田



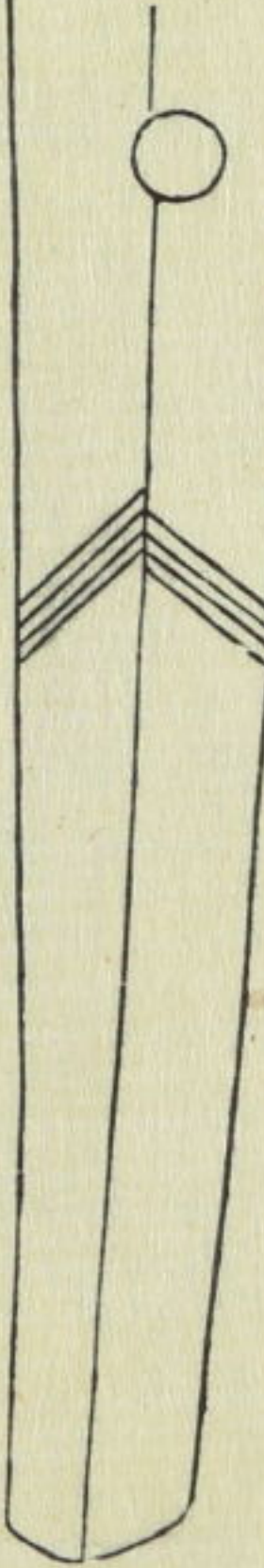
包永。



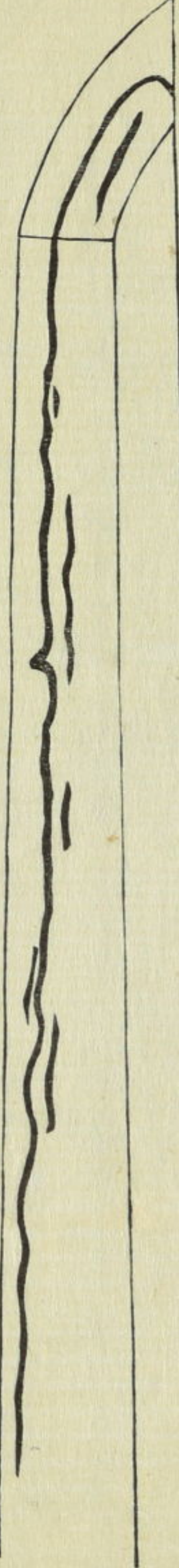
三枚目



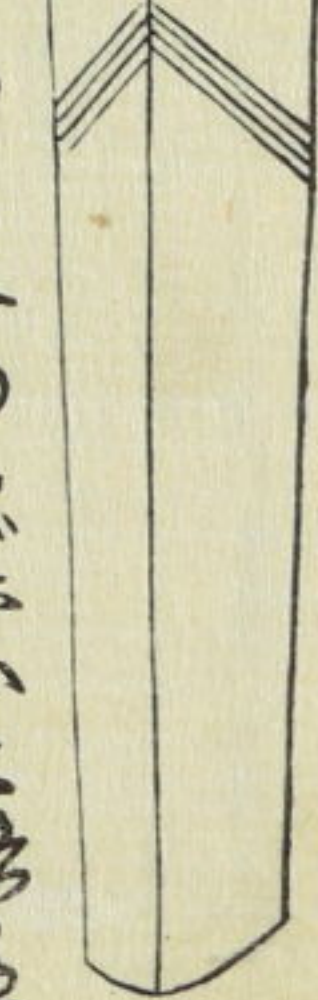
包永



包永



包永。



たてまののちまわりは平のちまわりは

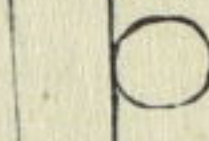
母

十



大和国添上郡千代院義弘

義弘



口

重弘



柱ノ用ニメ角アリ

角



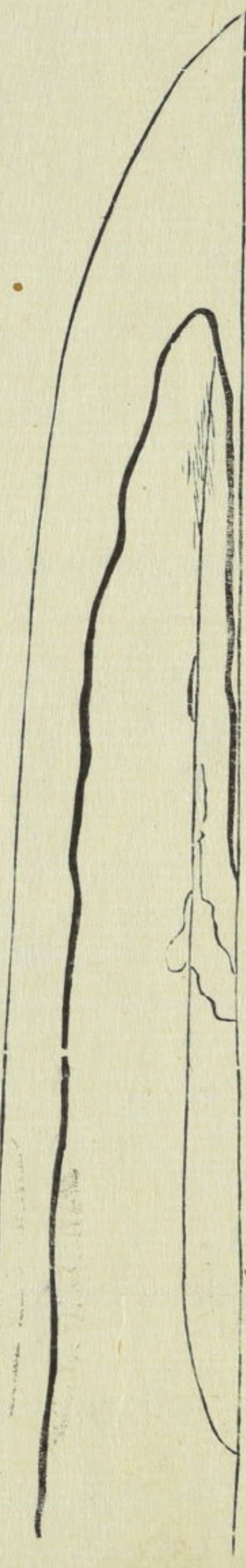
梁

柱ノ用アリ

○千代院

行信

肉



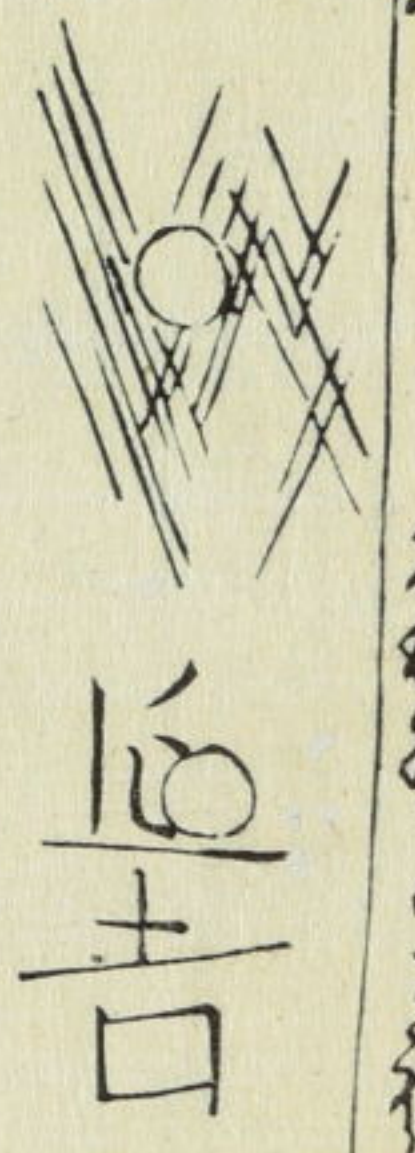
○富二

五

七

丸くうんと丸

大和のうらまは信者まわらふより

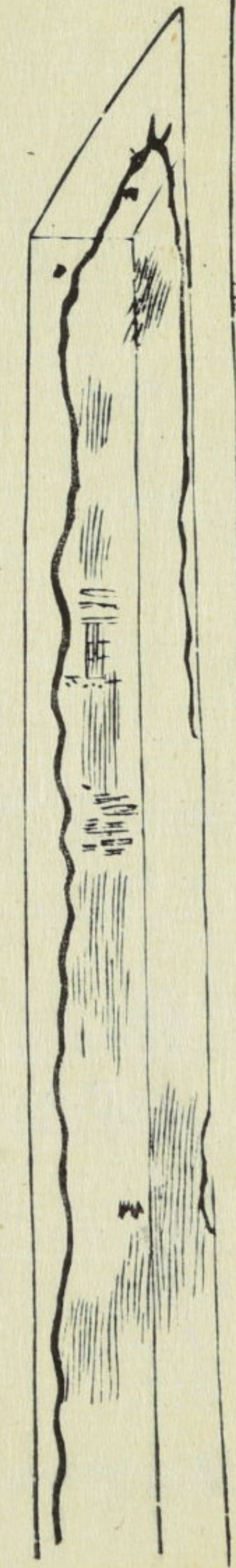


信吉

肉

肉

○二之二里

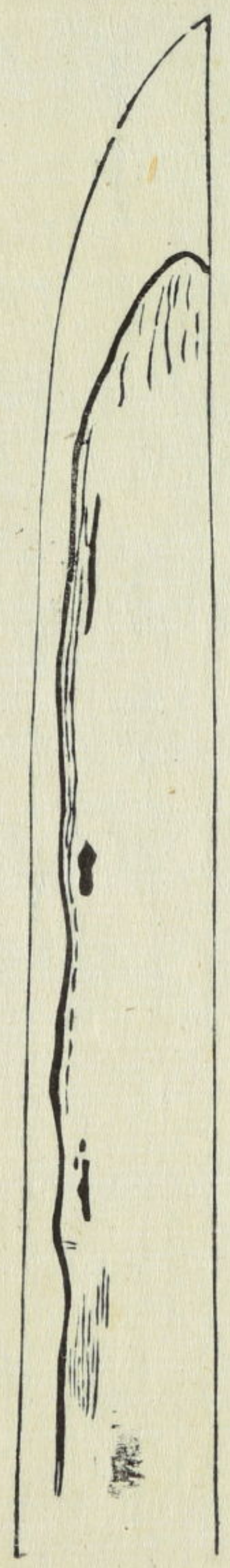


○大和国住人藤原貞吉



国行

○国行



# 相列物之類

一心の平に因り少少歯はまをかきしり  
心長はまはりまはらむくも是時代建我の此とき  
るも丸

○相州鎌倉住人行光

ひの平

丸

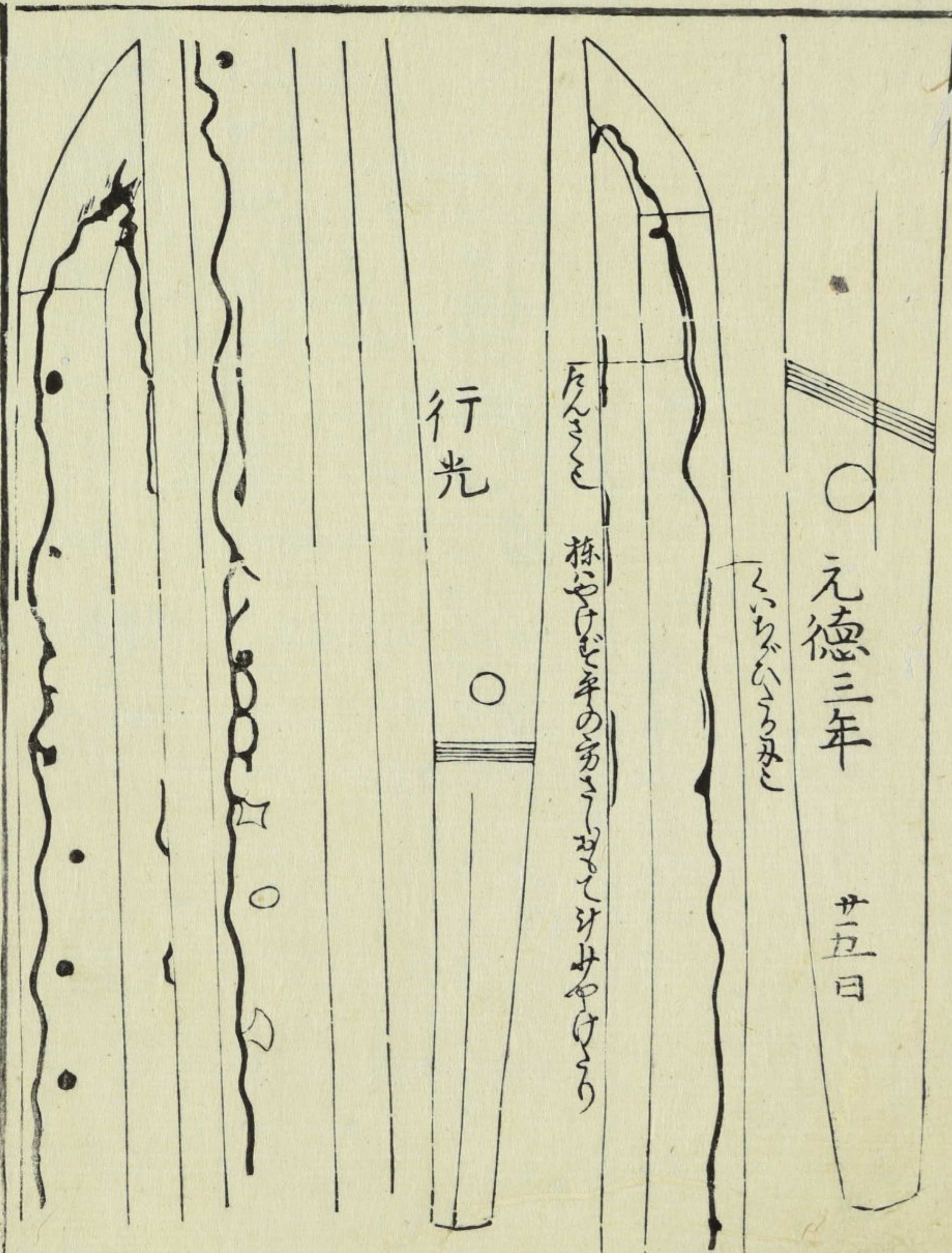
○ 元徳三年

廿五日

くわらひのりかこ

尻もと 棟やげど平のちうちをてけやけり

行光



心宗

自費宣の中と開くを合して下の心宗の心宗三つに同すはとけ他へりてを  
るこのち大云又幼光牙子大云心宗牙子大云心宗牙子に抄る也

心宗の角

小因五

○ 心宗小

心角

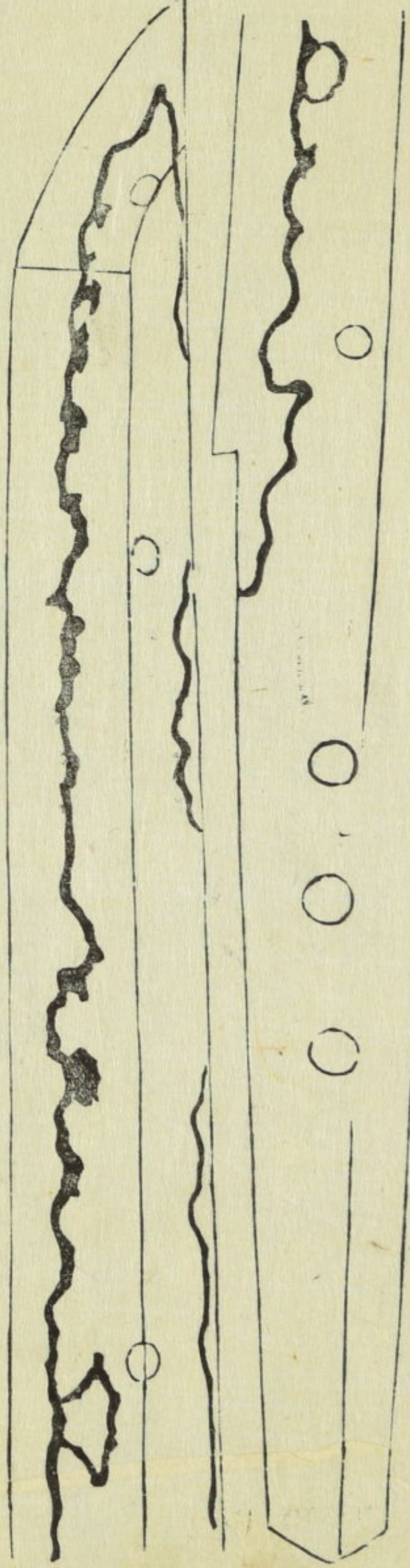
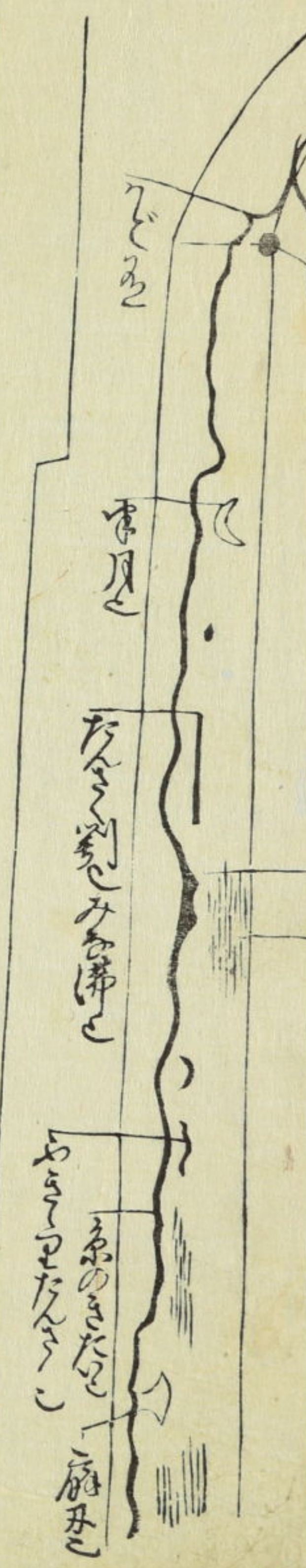
心角の角

○ 心宗

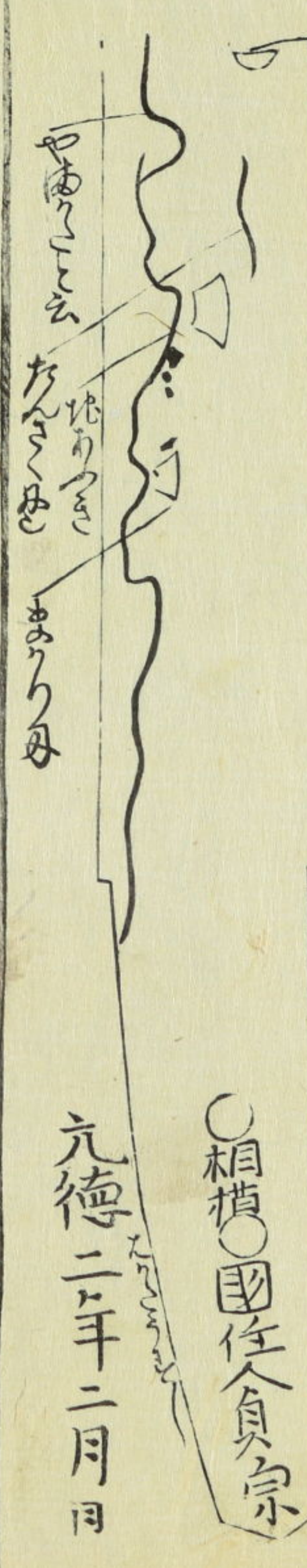


初めわらわら  
おとやうに丸一正宗

山形と判じしやうと判じしはあま  
かたまりとやうに佛しつゝあ



一刃の重月と判じしはあまよほにさふあまわさ一とさふあまわさ  
あまよほに佛しつゝあまよほにさふあまわさ一とさふあまわさ  
とさふあまわさ一とさふあまわさ一とさふあまわさ



○相横国住人廣光

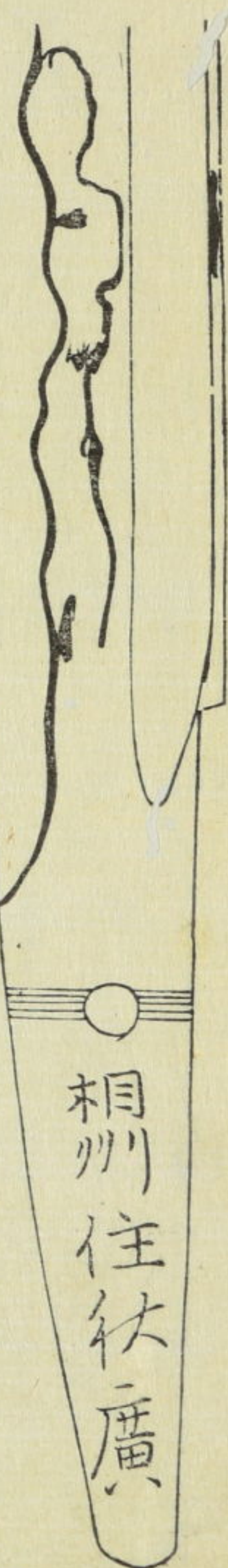
角にて鉤の尻車也

○相横国住人廣光

○貞宗 辛卯月日

おとやうにたぐい  
口傳  
先に佛  
行光同  
口傳



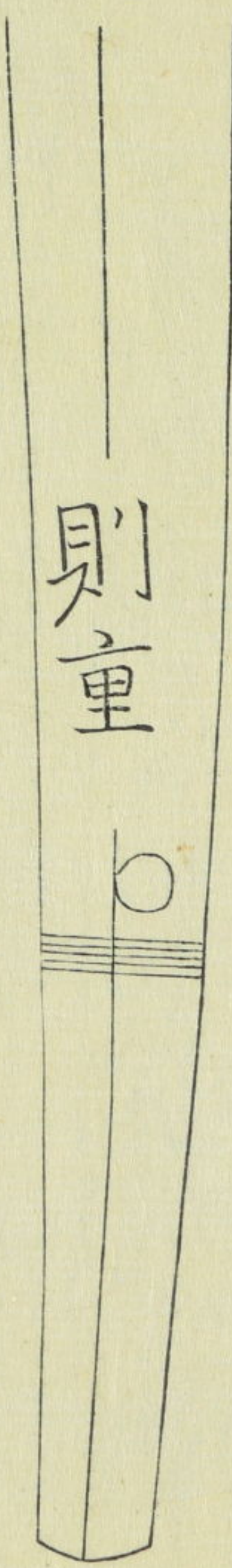


相州住杖廣



越中物之類

越中義弘親



則重



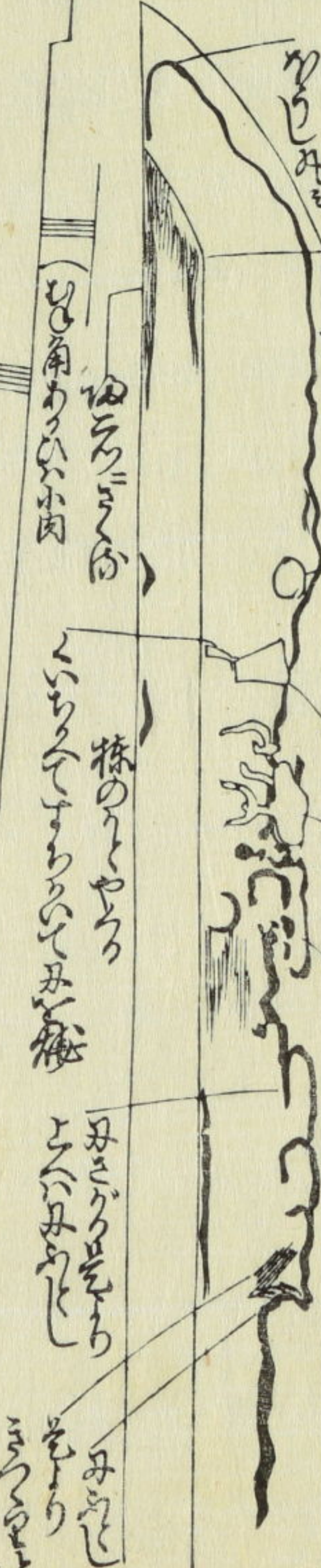
三ノ目

藤原

藤原

藤原

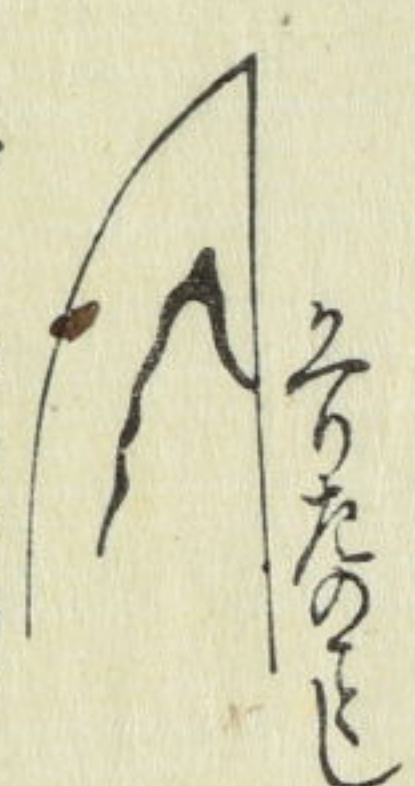
藤原



深州住藤原為繼

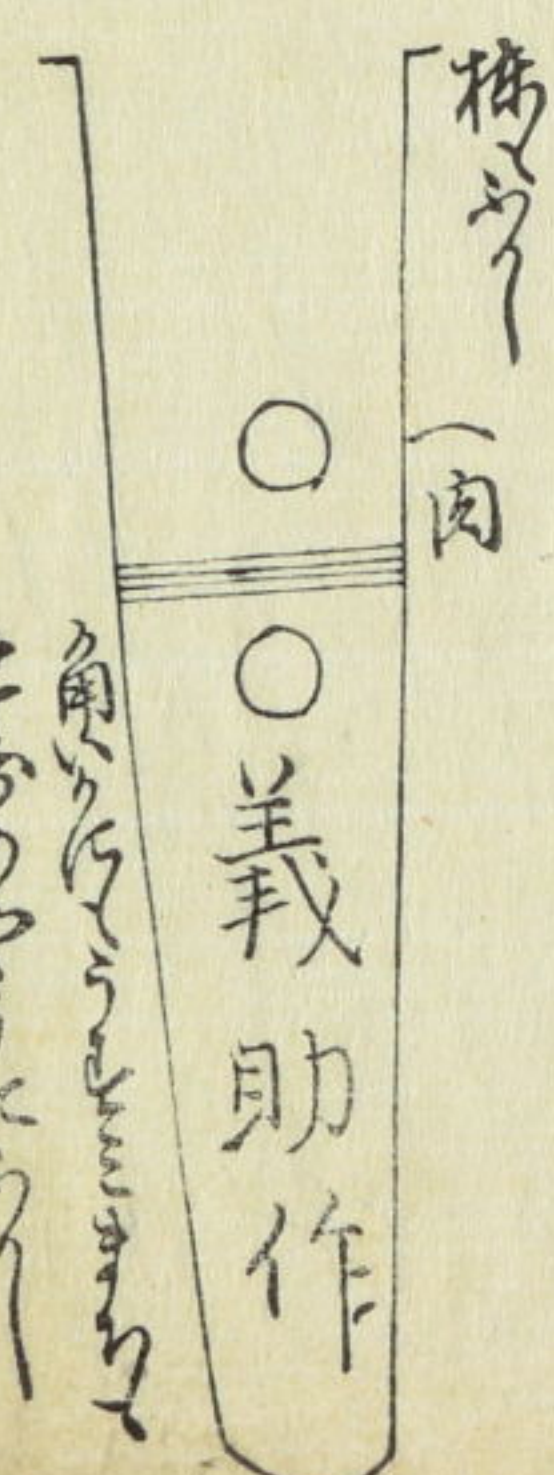
刀のせせてめふりさし  
うきそこのきりしは

湯田物之類



くりたのこし

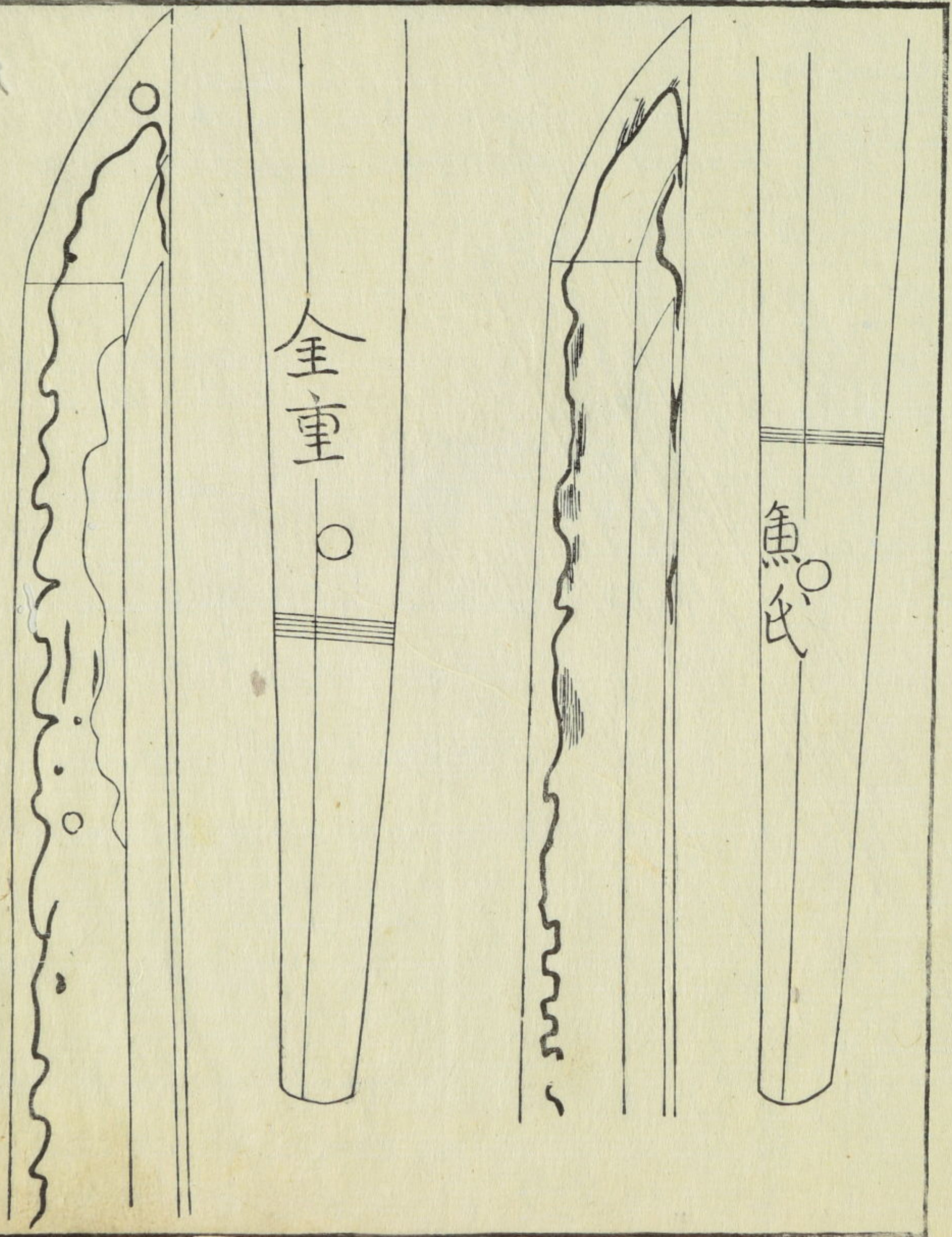
たてはけいあつし傳し初まの  
柄ふら地白りなみさきめ  
かみしあつし



義助作

角がらうらうら  
色美のやうにうら

丑



七三

丑

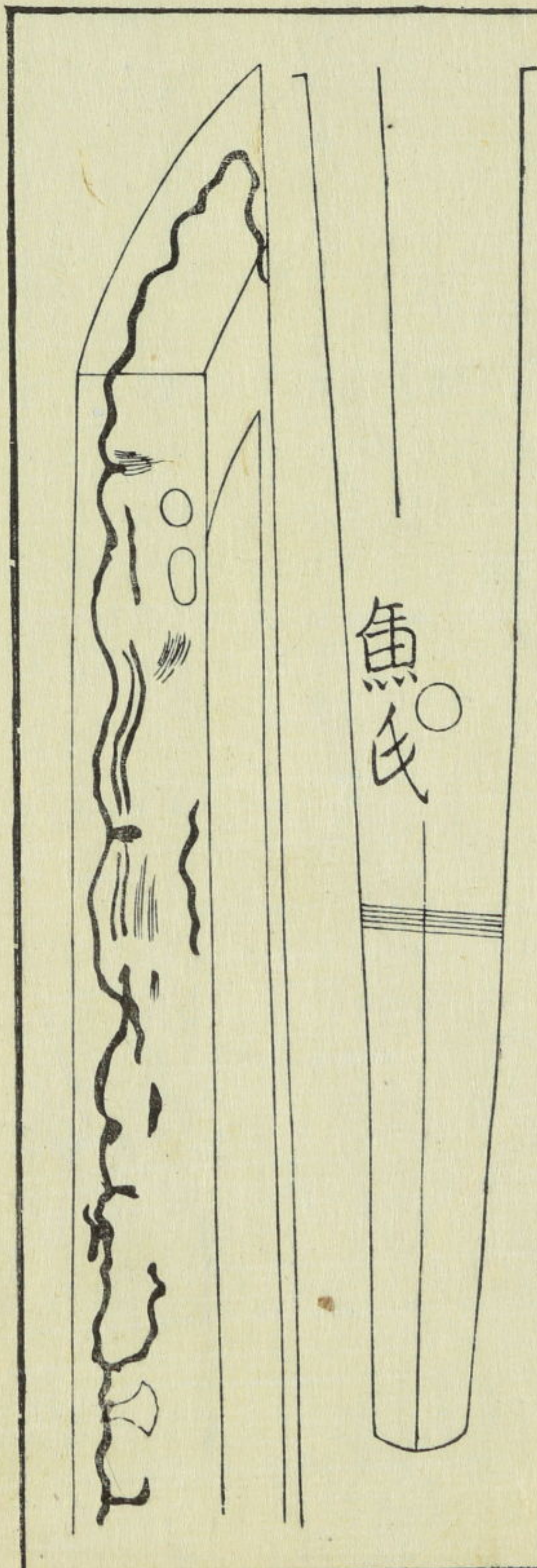


新巻

天文二十二年十二月十日

開之款

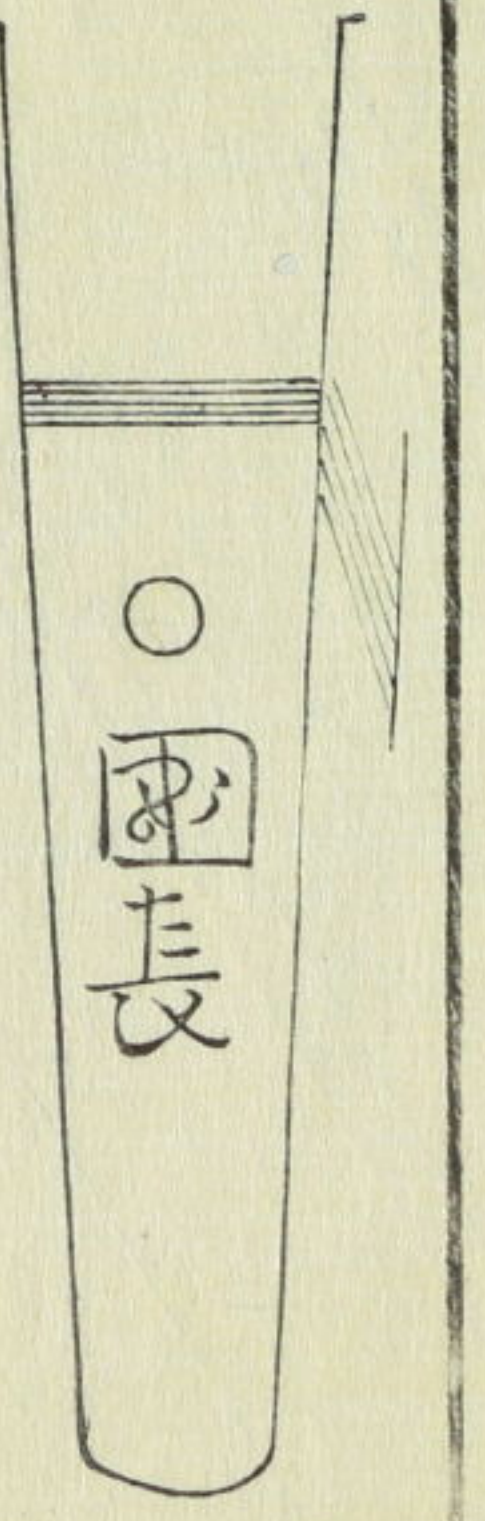
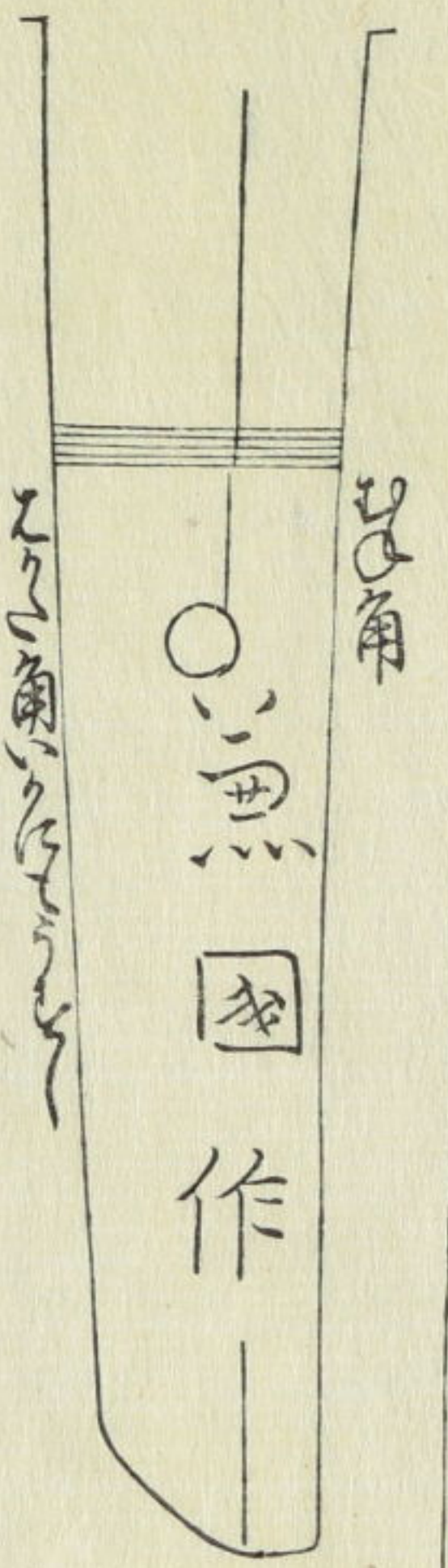
魚氏



七三

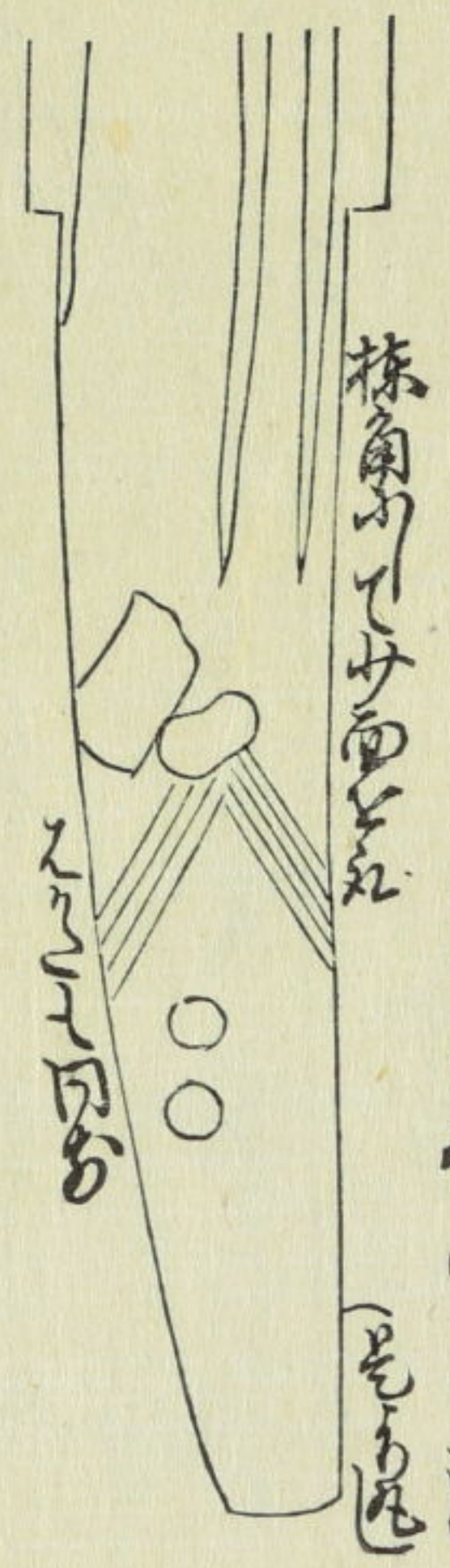
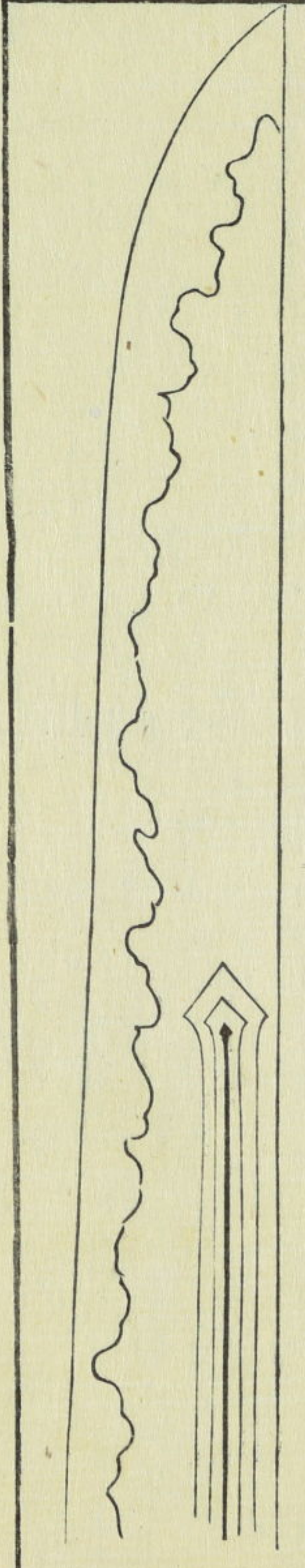


此の如き形は古くはありしと云ふ事あり



此は古くはありしと云ふ事あり

大休  
ノ  
ノ

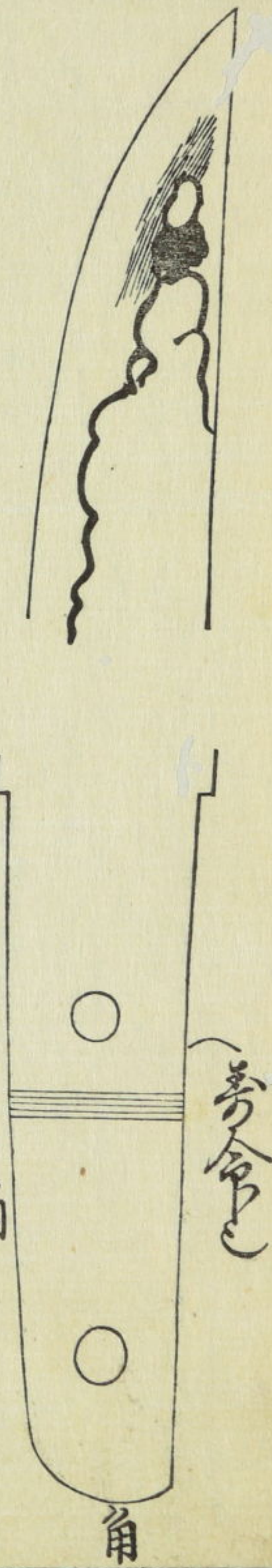
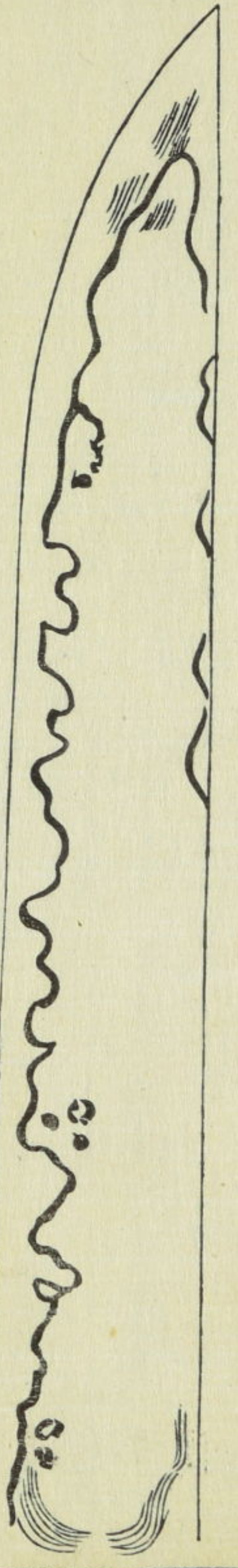


棟角ありて少くあり

東の赤坂千手院

(毛むら)

此の如き形は古くはありしと云ふ事あり  
自然の如くありしと云ふ事あり



(秀命)

角

角



後次の上

申切り及みりじりおまわハ  
みるみりじ

一物中物より力のてのうす切  
切先たとは但おまわり小切先  
直次次者直次直次直次  
ひ恒みかまは

年の志のさひさそみじり三分りとのけす  
やのさハ則ち直次直次直次直次直次

直次

一角して肉あり



とて肉

ひ角

角

肉

角 倫中 〇住美長作 角

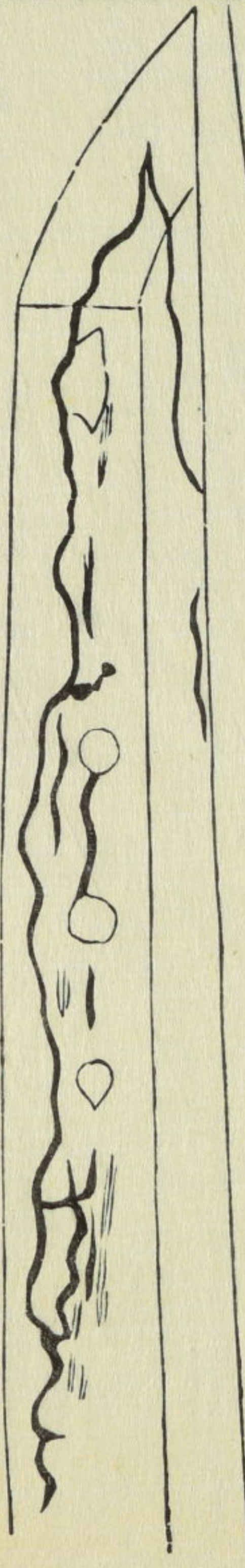
正平 〇八羊二月日

角 〇倫中国住次吉 角

〇康安之月八月日

筑前物類

〇左



かじりおまわり  
かじりおまわり

なと一字打

二代ハ安者  
三代目ハ貞者

一物中物より力のてのうす切  
切先たとは但おまわり小切先  
直次次者直次直次直次  
ひ恒みかまは

かじりおまわり



法則

切先の白  
乱じ

法則

切先の白  
乱じ

奥切物

行平作

小角あり

いんげん

曲旦州位國宗作

明德二年二月吉日

奥切物

時

〇 伊 〇 伊

寶貝寺

又目録

二

〇

〇

〇〇〇〇

やがんのまじり  
みえあり

初まはにみぞを立作國のやうよあり

極くは深し極るは浅い地の物

サ丸一掃

二又目録  
は他の物

角にて肉

おとみ

けいれい



徳物の類

初

角あり

〇 二 恒

角あり

角あり

角あり

初 恒 〇

〇

〇 恒 〇

角あり

〇 恒 〇

〇

〇 二 恒

角あり

一

二

三

角

角

〇 恒 〇

角あり

〇 恒

角あり

〇 恒 〇

〇

〇 恒

〇

角

〇 恒 〇

角あり

〇 恒

〇

角

〇 二 恒

角あり

〇

角

〇 恒 〇

〇

〇 恒

〇

〇 恒 〇

角あり

〇 恒

角あり

〇 恒 〇

〇

〇 恒

〇

角

〇 恒 〇

角あり

〇 恒

〇

角

〇 二 恒

角あり

〇

角

〇 恒 〇

〇

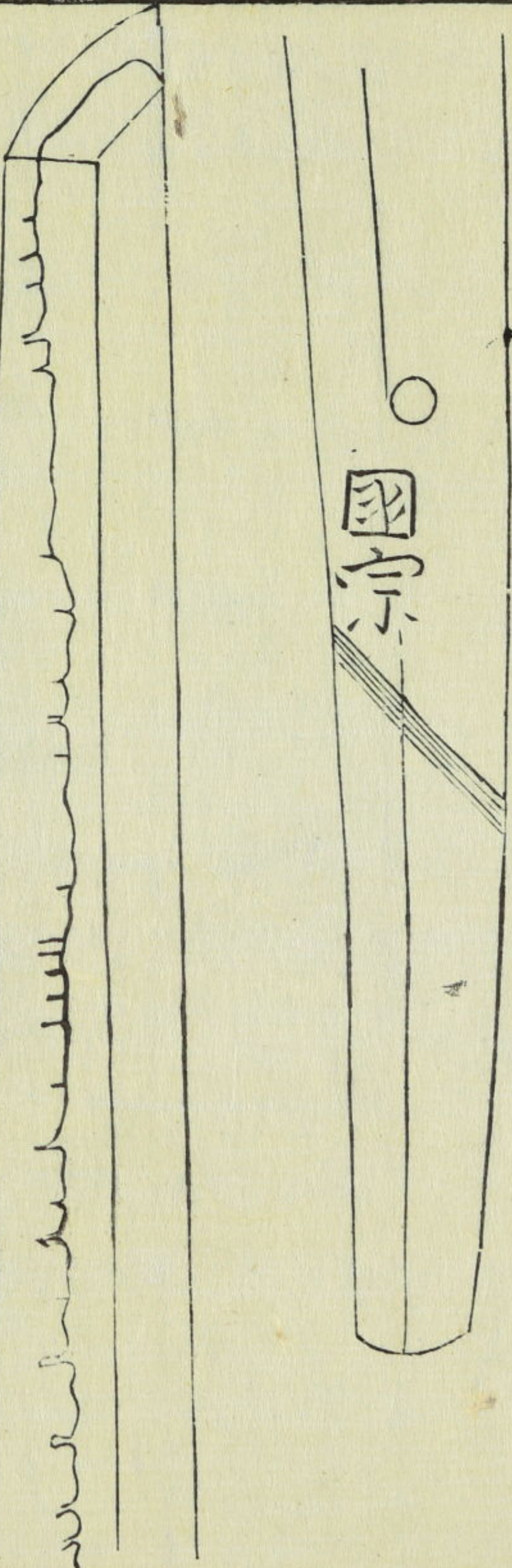
〇 恒

〇

倫前國則宗



國宗

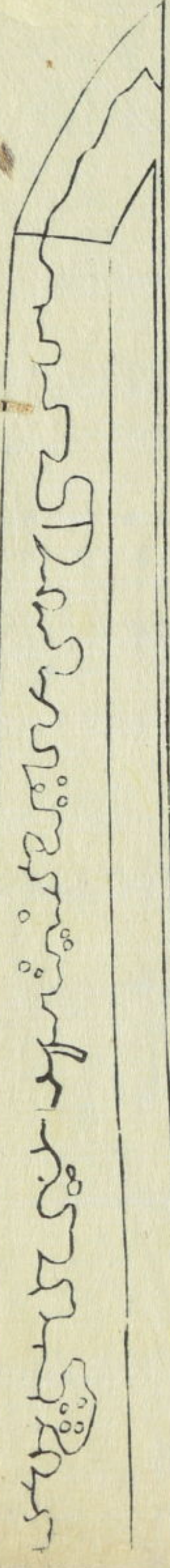


守家造



守家造

守家造











木ノ花

木ノ下

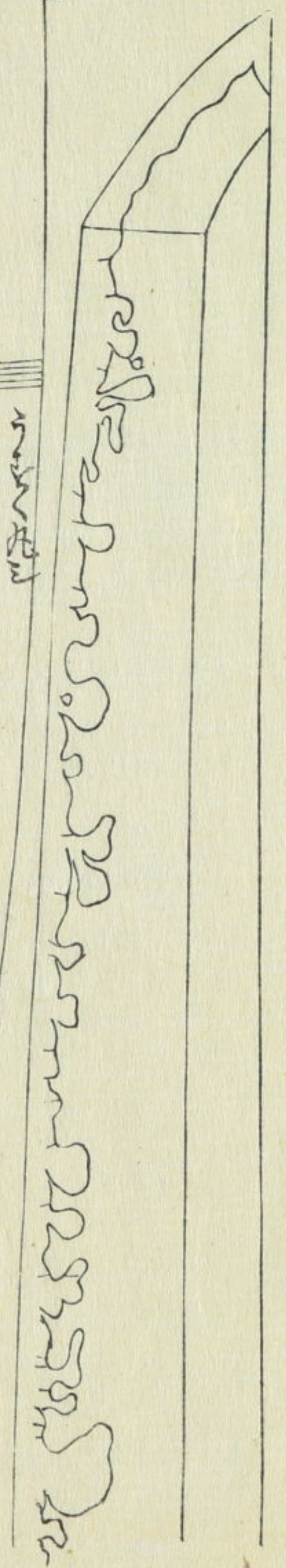
まりのめの極

○助光

元夏二二月日

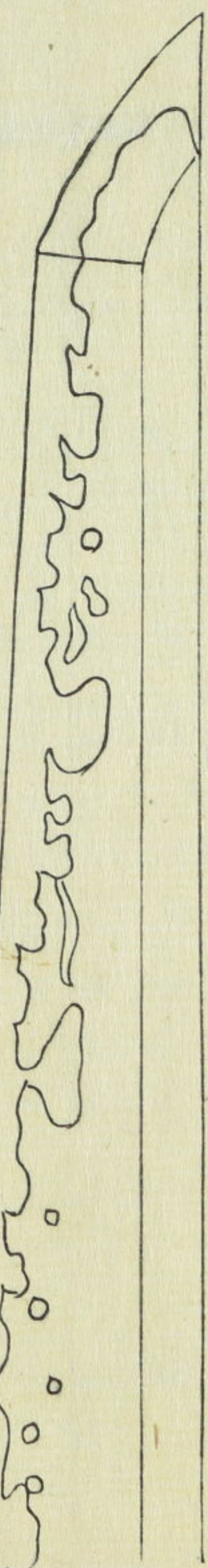
楳丸

○ ○ 倫前圖吉是任左近衛助光



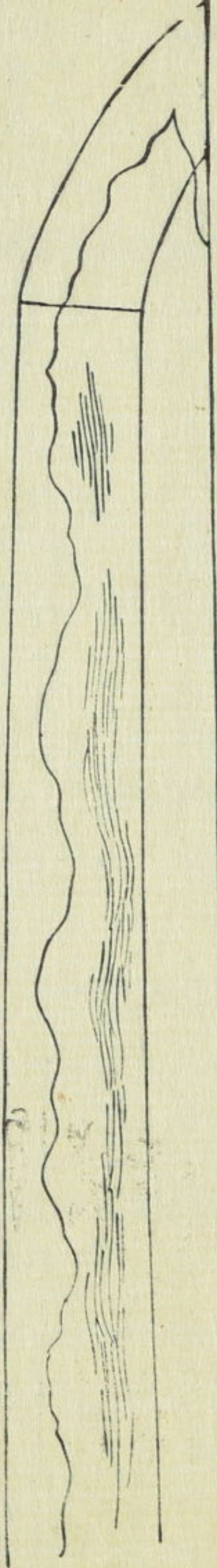
助宗

○



助真

○



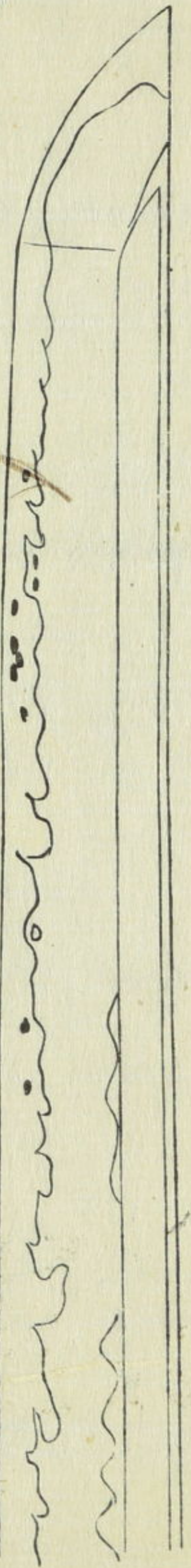
倫州長船無光

丹

三

備前守の御用金

助義

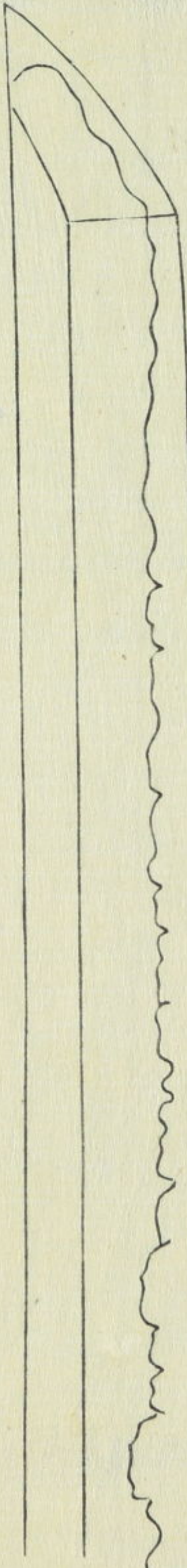


備前守の御用金

吉平

標丸

備前守の御用金

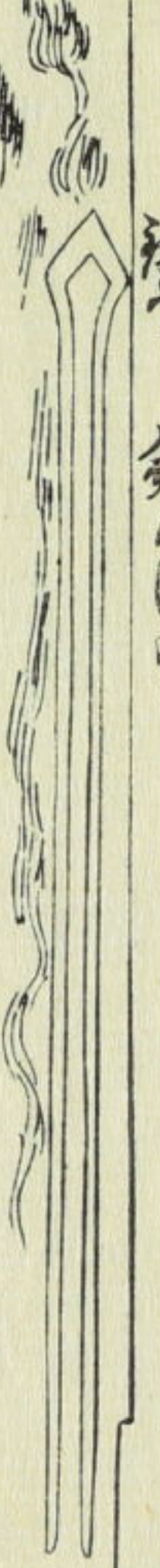


新と新

備前守の御用金

小肉を

真平



備前守の御用金

備前守の御用金

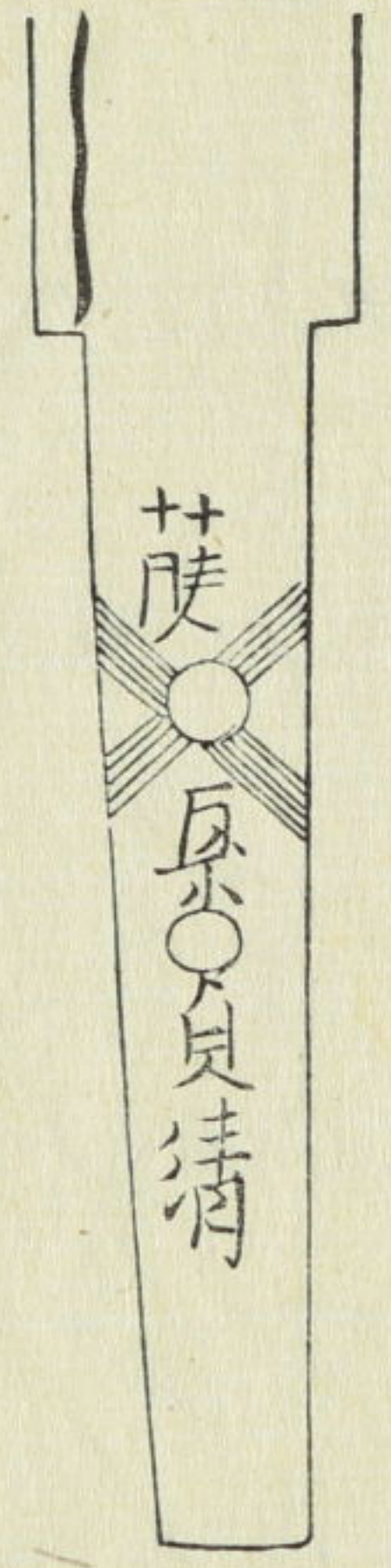
本國産の肌は...  
一して...  
うには...  
その...



赤め

十

貞の貞清



十

十

角行ていふとぬれ

宗 ○時行作

角

○應安八月日

一代源治をあらわ

角柱中

角柱源横下(角あり)時代無事の比三昏

○因竹信昌小長

肉

家裏にいらつるはよめけり

横み少直垂て拂ふてはまことけりやま

源治をあらわ

源治とらつる天の海のみ  
板目(地)を屋敷とよみ  
廿一(別)地まよふうり  
とて白一別(海)浦(ど)で  
移りがりこにやうやく  
後(り)を(や)り(て)源(治)  
乃(を)ま(せ)が(ら)ぬ

長州任 顯國

株肉

長州任 貞主

肉

ろく肉

備後住正家

三右衛門

わしとらうみゆにまうに沸き及女行ふゆり日時のものこ  
 紙指さる極くわきくやうのゆりこ面方とあり

情列物

角天  
肉

行宗

紅物

椀肉

中国

角  
肉

丸い

丸中女んめ

紙板目にはの平れぬよみのこいよ  
 わり肌ゆかの極よるこみこいよしたぬあ  
 極よるそ沸ゆり但まうにけで而沸  
 されたり

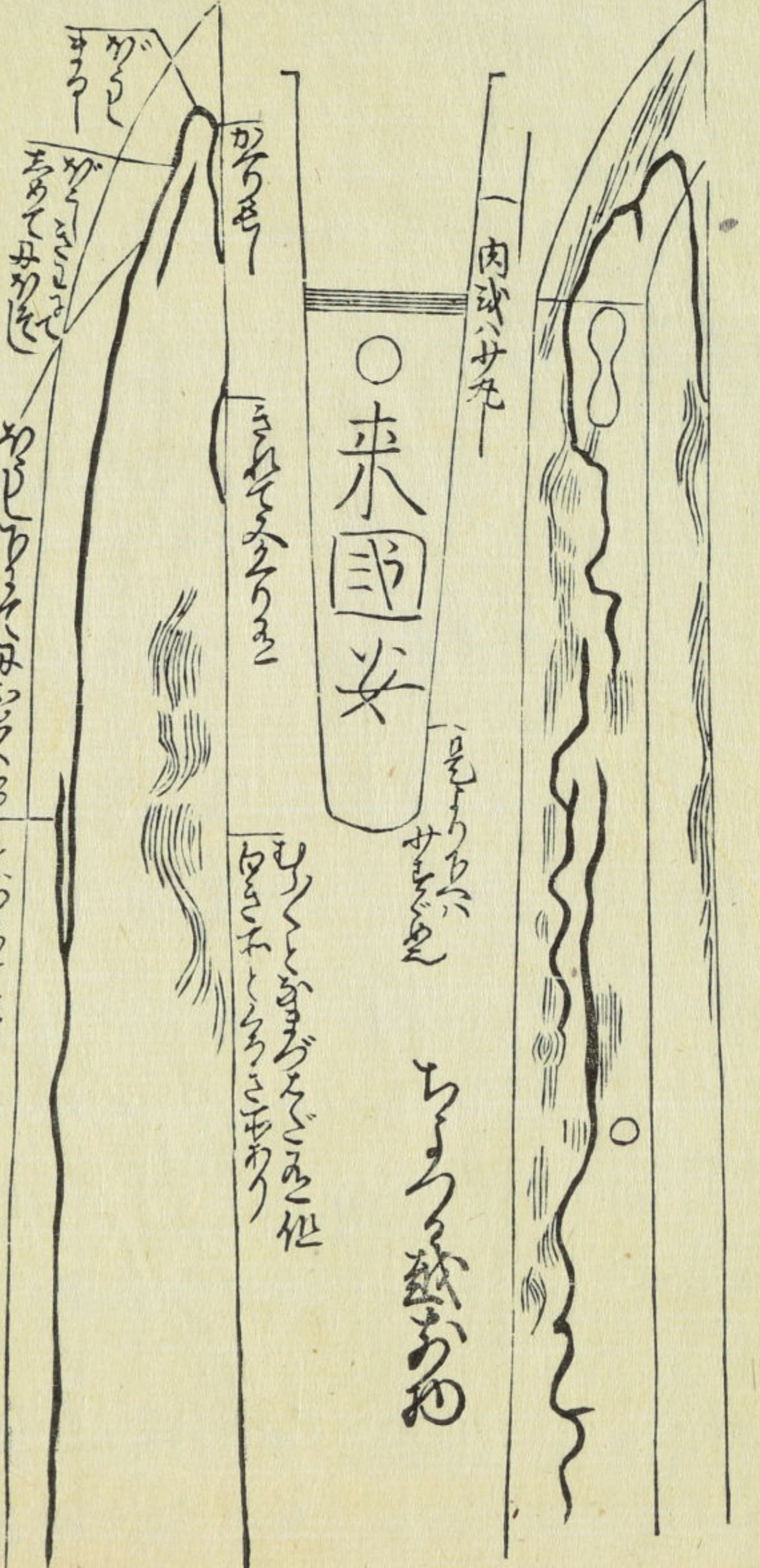
藤嶋女重

如る物

肉成ハサ元

来国女

らうる然あぬ



一紙指さるぬあぬをふんこひりく他ぬうちうこいよ  
 他うこいよとあり

こいよのよ  
 こいよのよ  
 こいよのよ

こいよのよ

こいよ

是と云ふはたつた

是より下

下七

○ 武内住照重

○ 房

内園あり

○ 信國

角

越後

○ 行作

○ 行作

是の地は武内住照重の地なり武内住照重の地は越後の地なり武内住照重の地は越後の地なり武内住照重の地は越後の地なり

